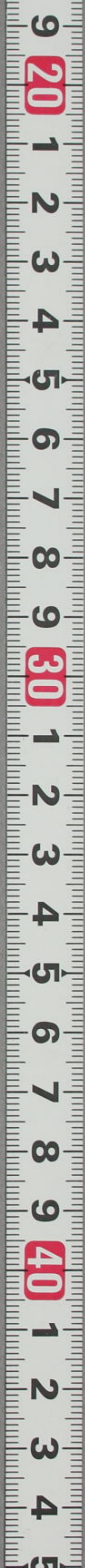




13
1760
3



唐土訓染圖三景卷

五部均集藏

宮室

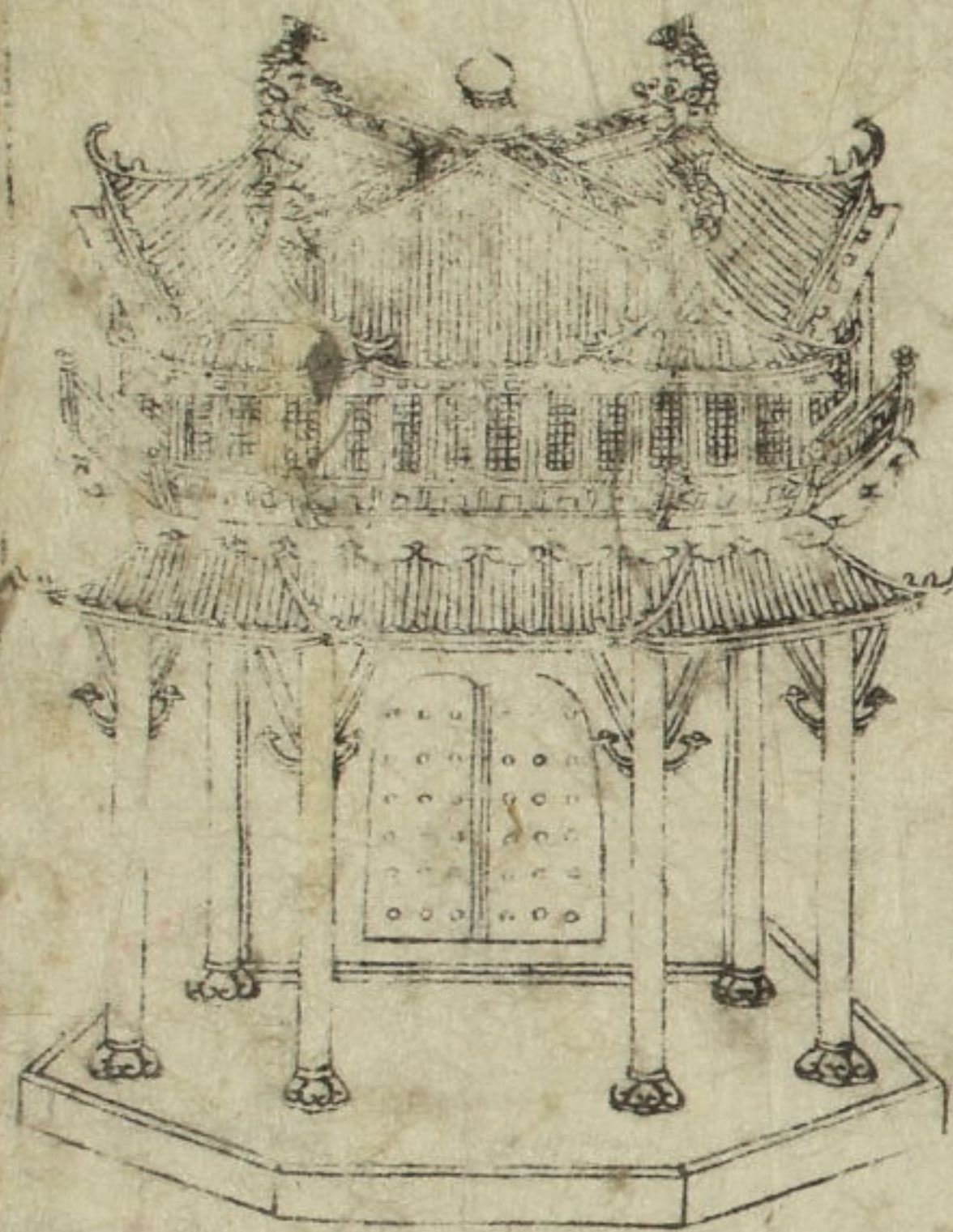
易曰：匪習上，古穴居而野處，後世聖人易之，又作宮室，此邪？上天子之宮，天子之宮，長岡の村居。

宮 宮のミヤ 合宮ハ天子の宮ノミヤ

邑の中に處すハ心と云ふ

殿 殿ハ天子の宮ノミヤノ前殿ハ天子の宮ノ前殿

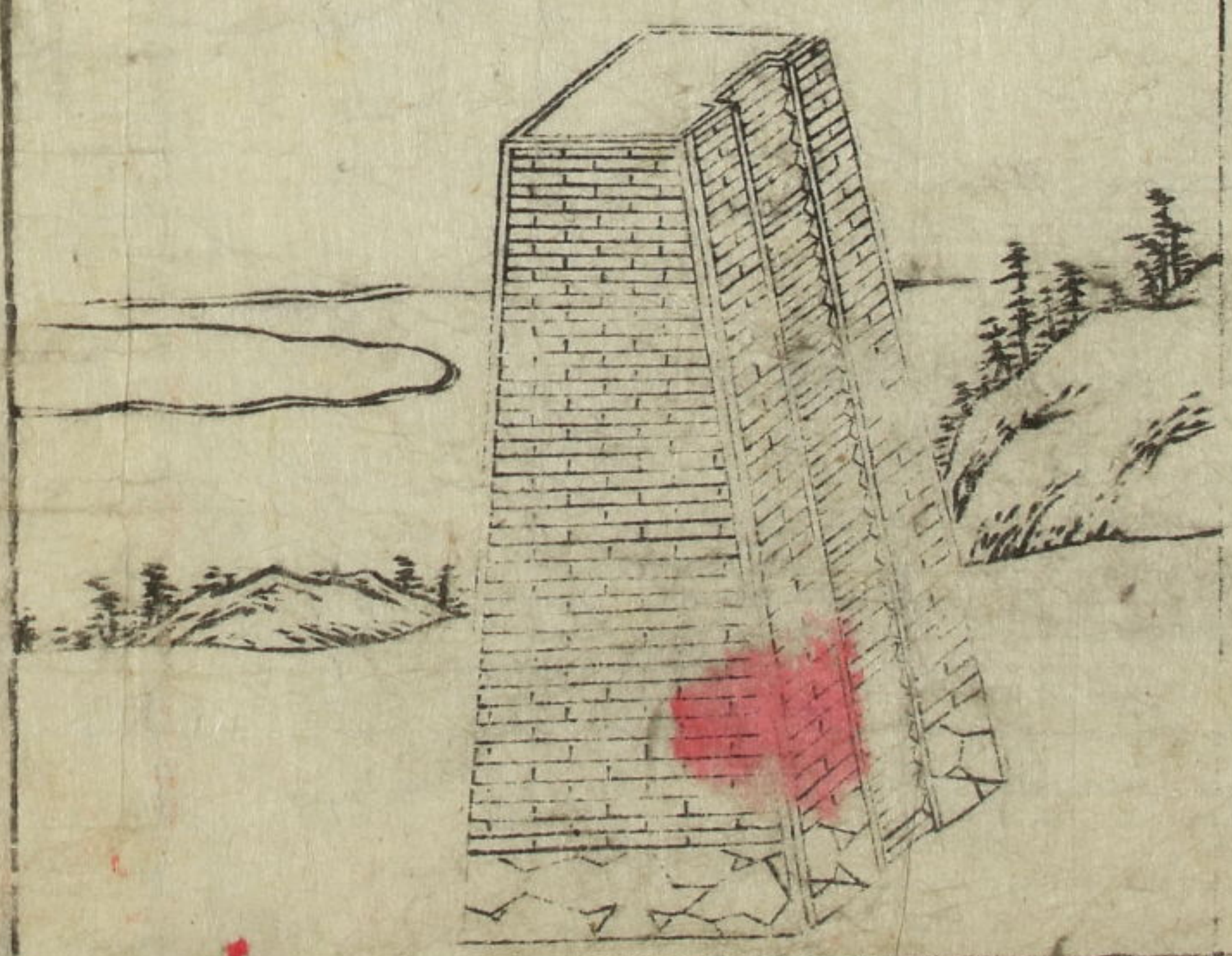
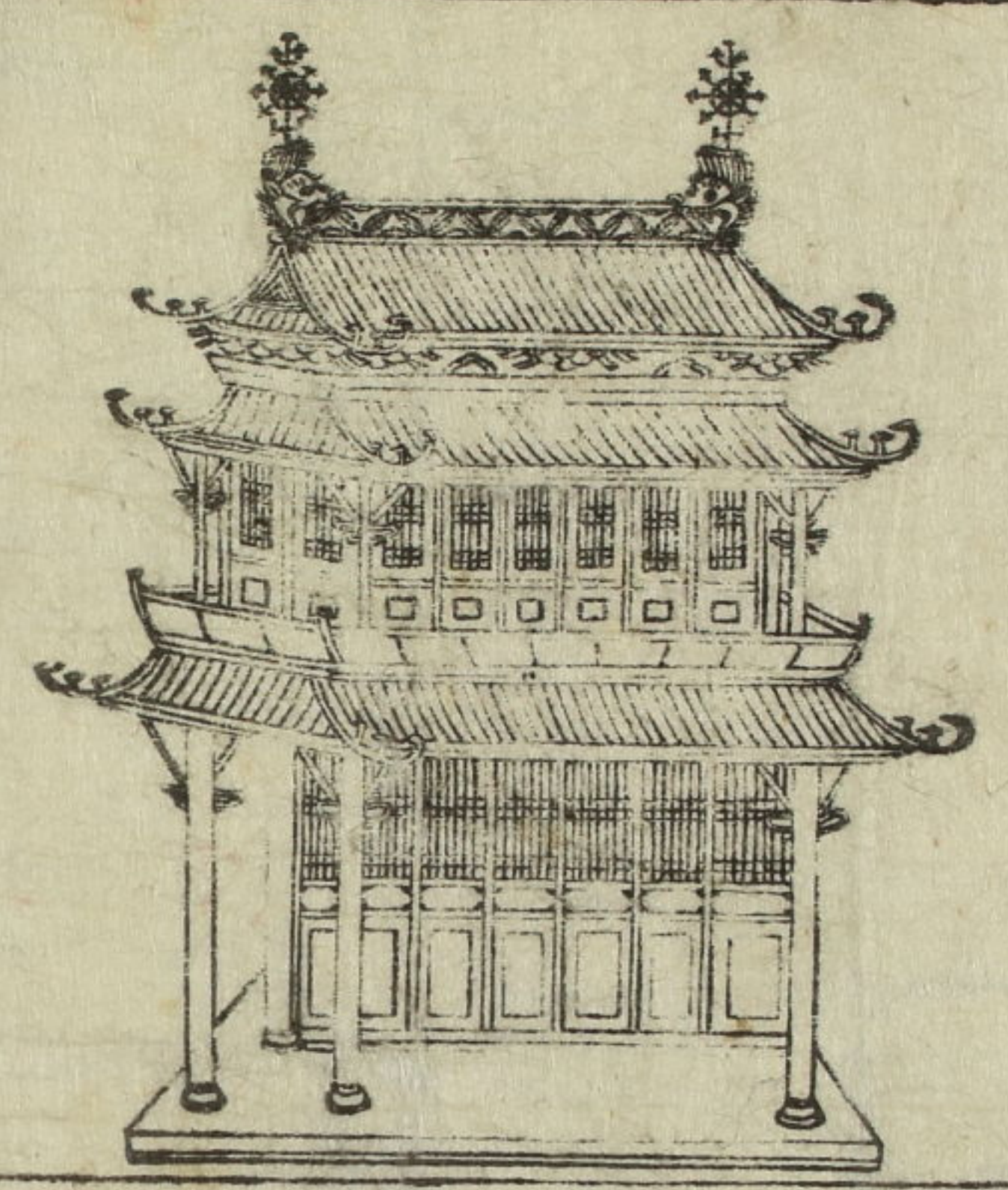
衆の屋ト云ハ天子の宮ノ前殿ハ天子の宮ノ前殿



Red square seal impression at the top left of the page.

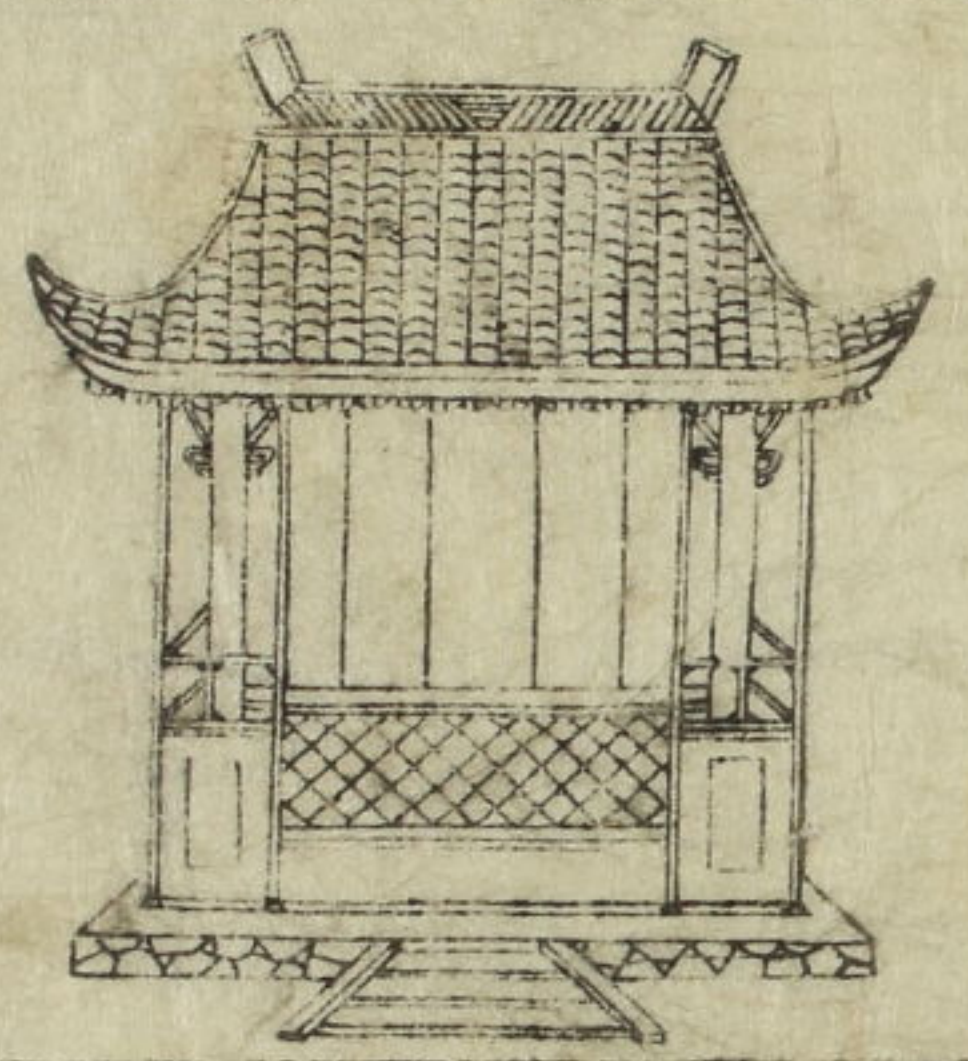
Red circular seal impression to the right of the top seal.

觀 阿闍の黄帝の居る所 臺にして 其の黄帝の
 白鳳阿闍の集る所といへり阿闍のついでに臺にして四方を觀
 櫓乃より一重なりものなり 阿闍のついでに臺にして四方を觀

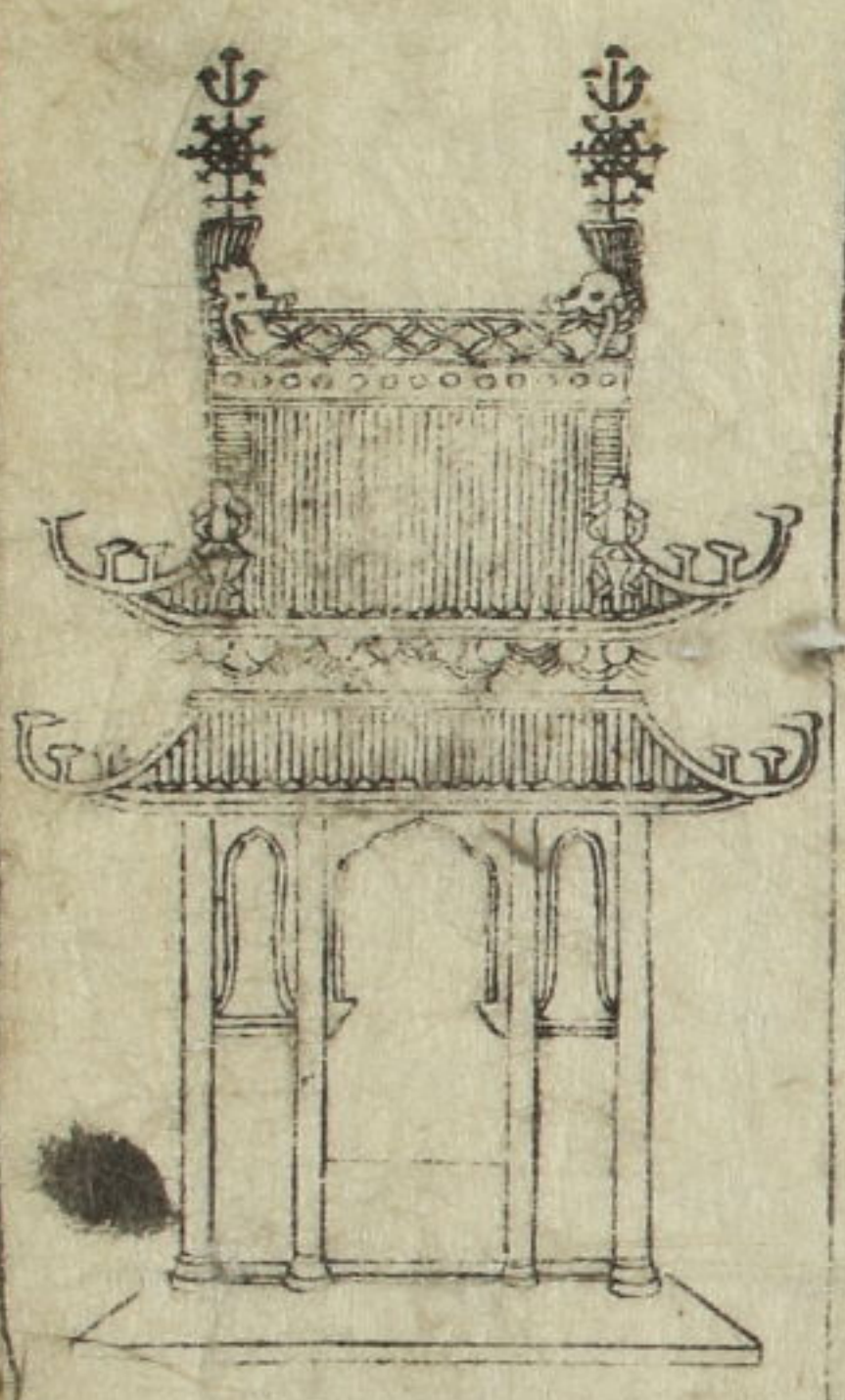


堂

明堂の黄帝の居る所
 取のり明の字乃か
 礼義の管のりこあら
 と明なす
 分意なり

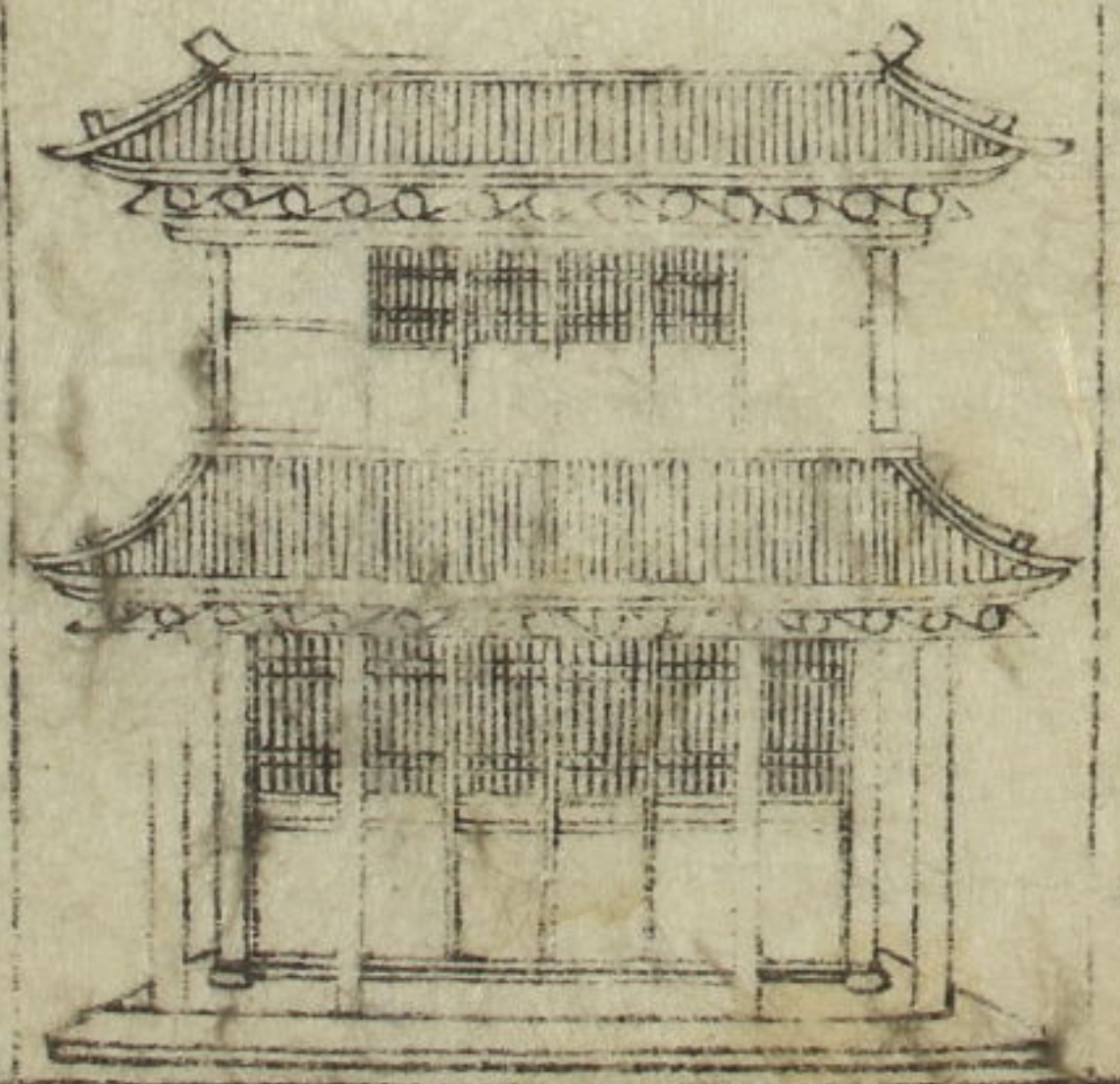


觀 黄帝元始觀をつらま
 觀ののぎとるの意なり又原櫓

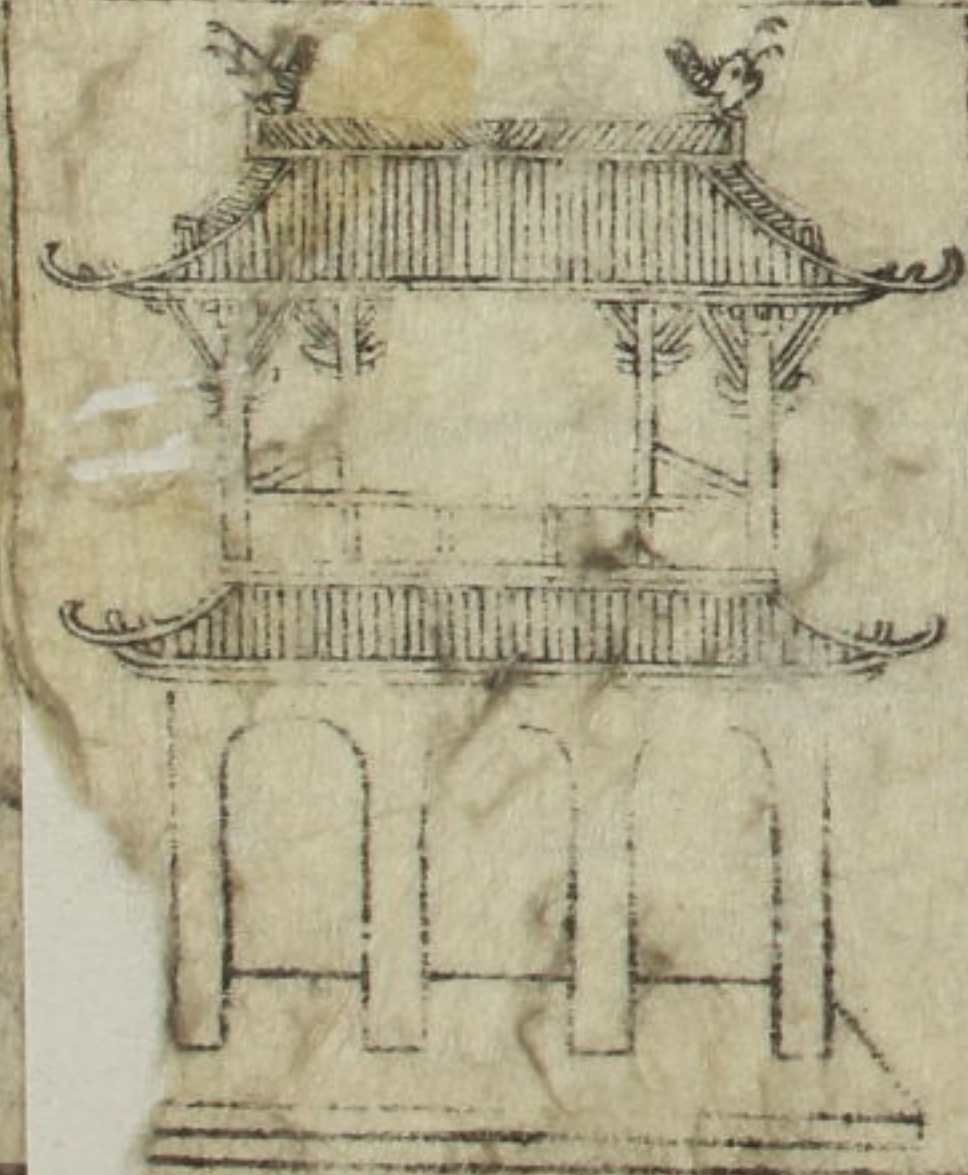


榭

方士漢の武帝に榭て曰黄帝
 五城十二
 榭と爲く
 神人と候
 と武帝
 これと信
 して榭
 とつらま
 なる



榭 阿闍の
 中門を
 わきを
 の小中乃
 かり



亭

亭の字の意は
とゆりあつた
不し祭の法
十里
かくん一亭
あり祭と亭の
長しゆかり



舎

舎なり他國
より来るもの
賓使々として
りてり候ふ
りつらり
和りの使者
舎なり

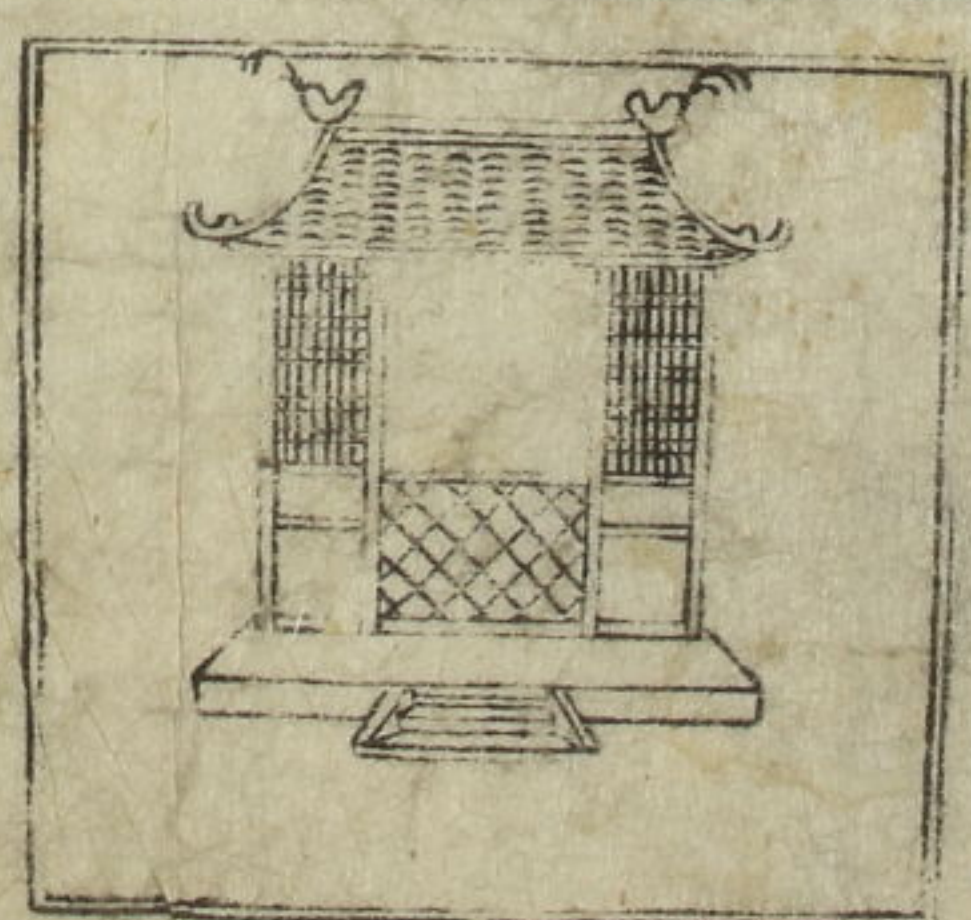
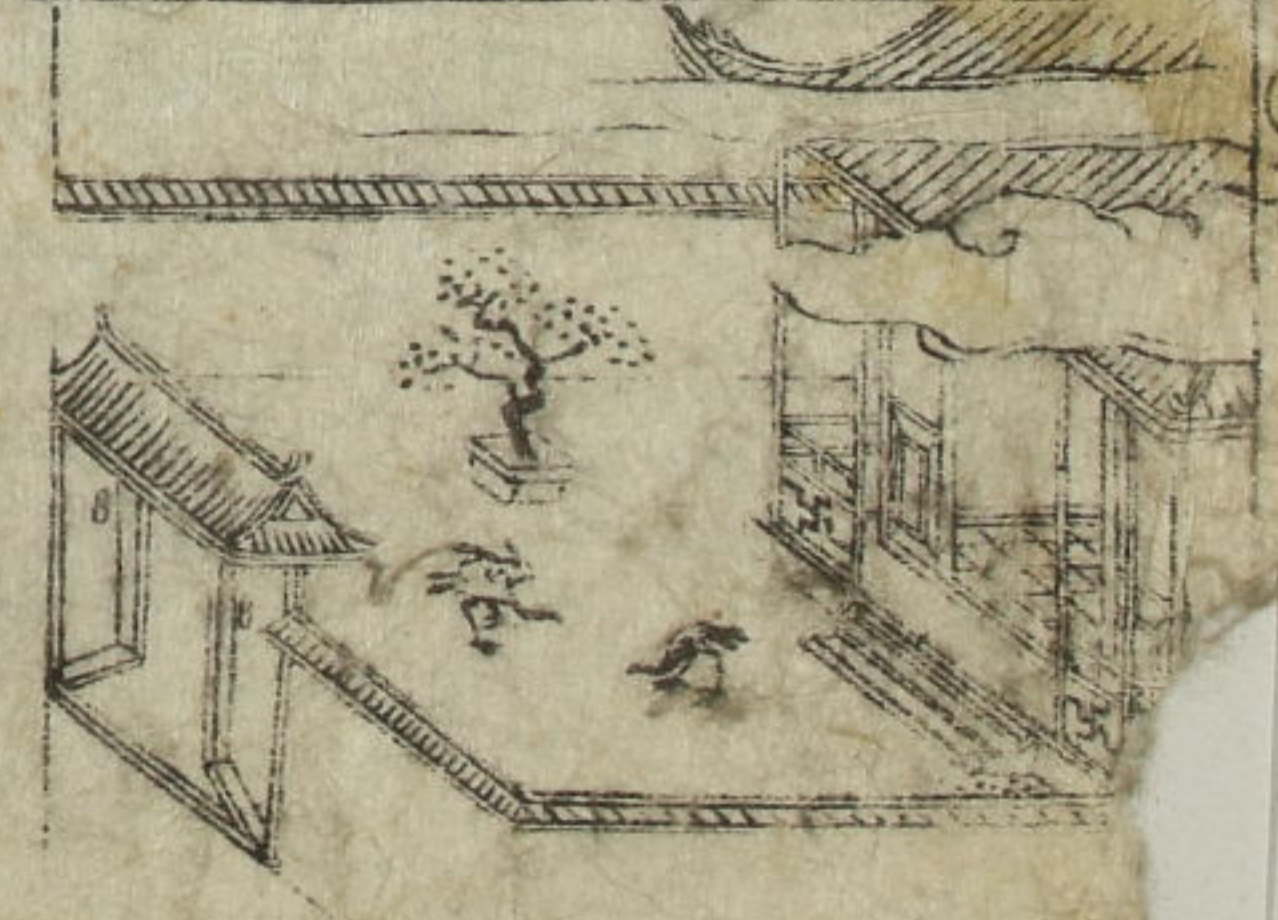


庭

庭の門は
間と庭といふ
黄帝大庭の
館といひり
庭の名黄帝
よりいふ

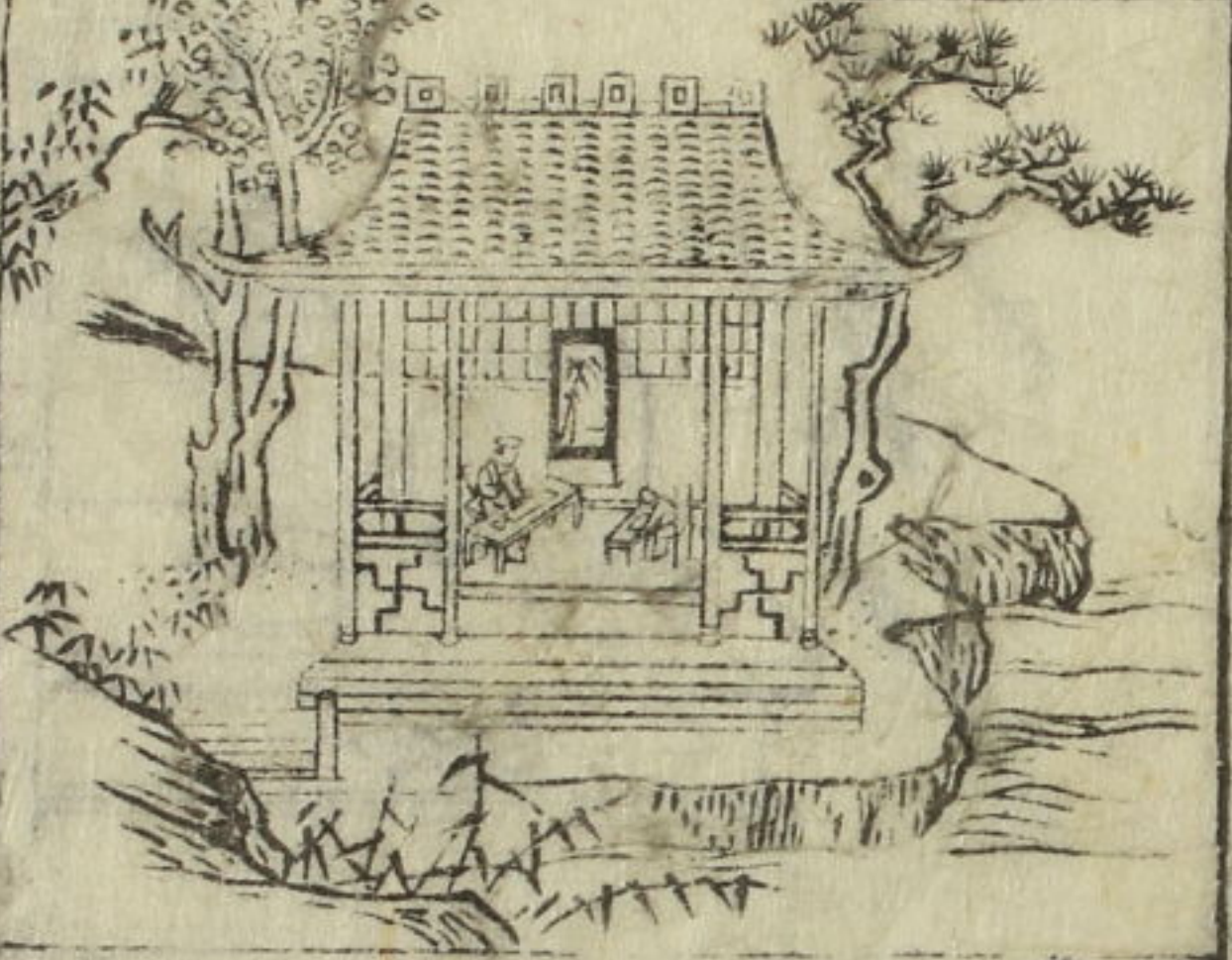
宅

孟子に
五畝の宅
ゆに桑を
ありて
つ宅の
桑と云ふ



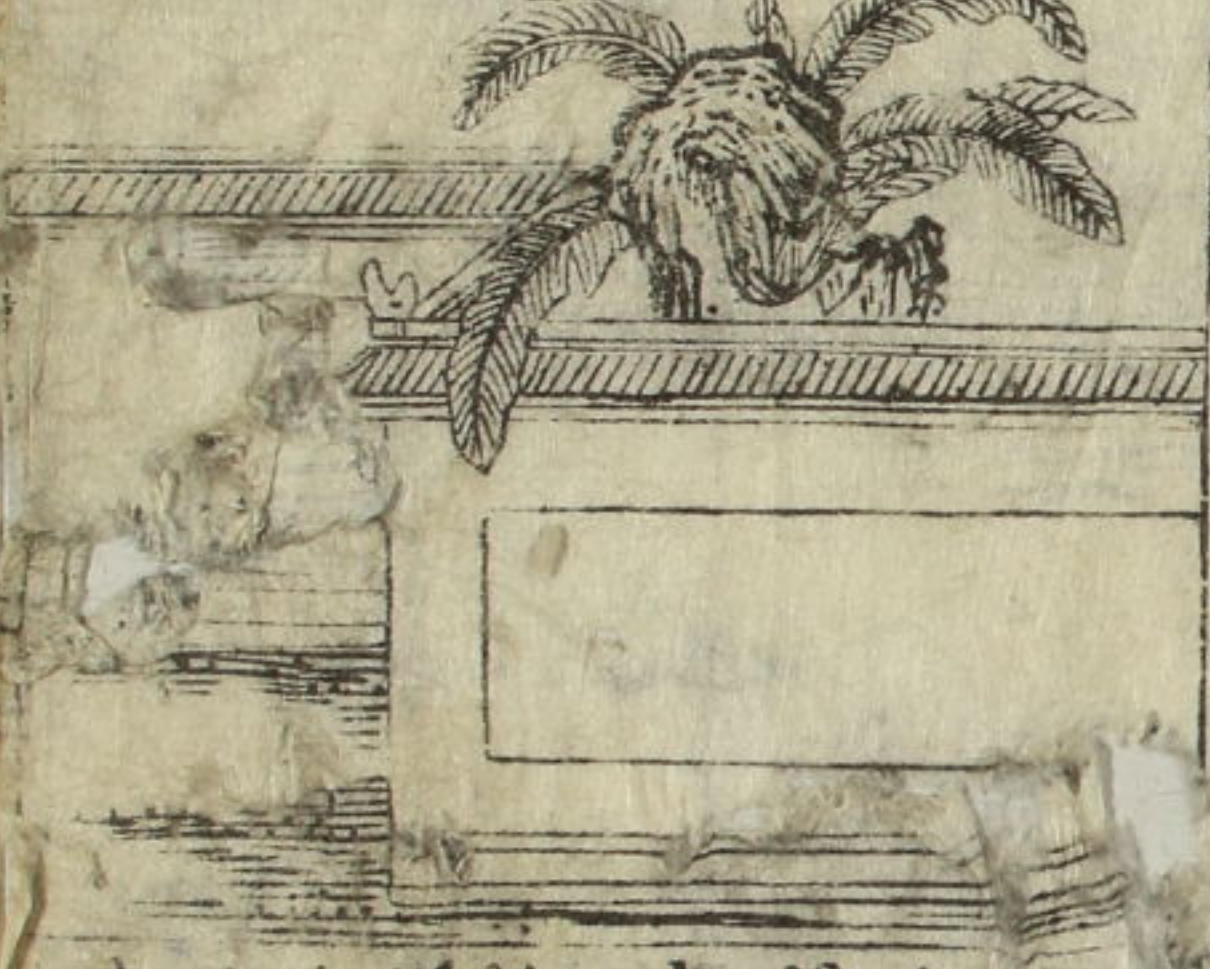
齋

宣帝齋居と
事と変り
此名あり
及上殿仲堪
池の
屋と齋
所なり



堵

堵の
時らに
人として
と去り
と版
版堵
史記

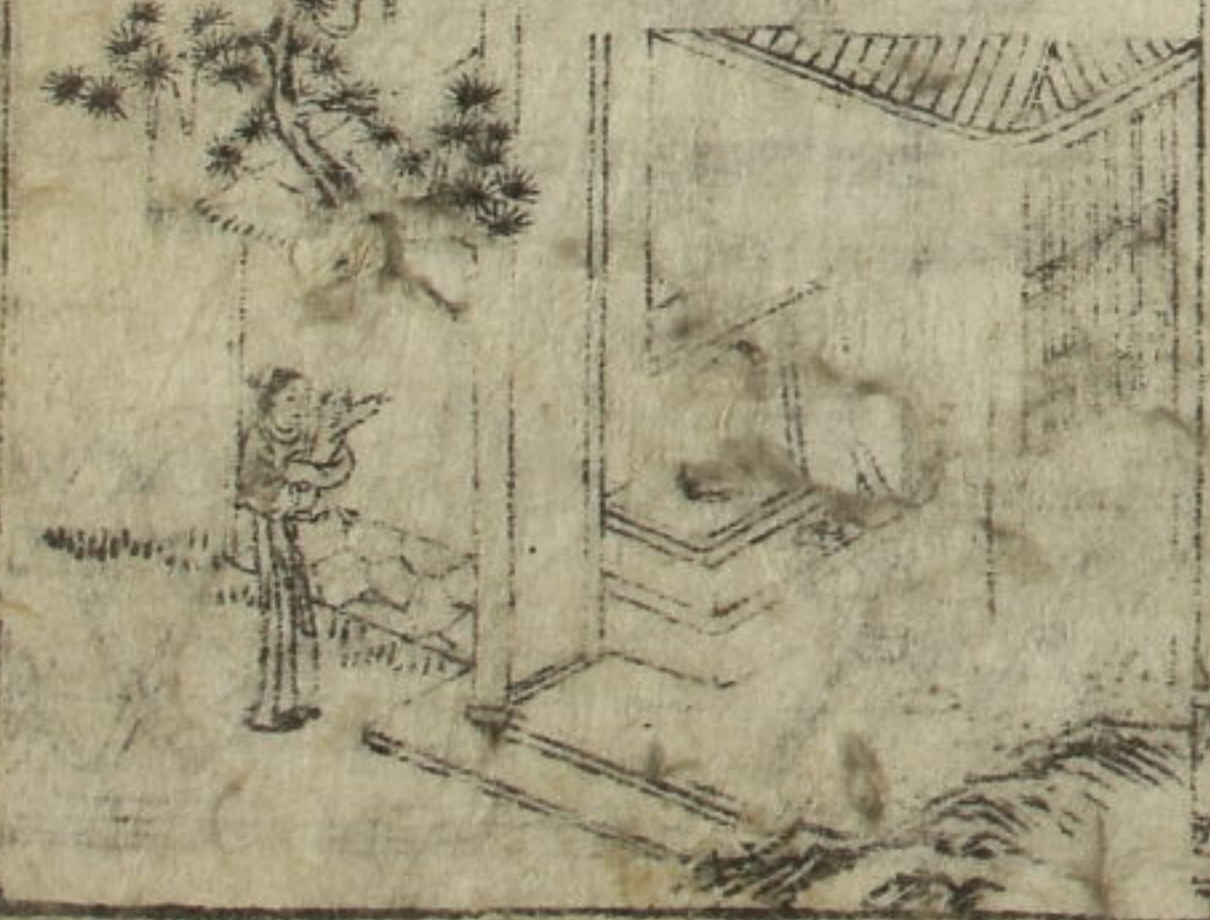
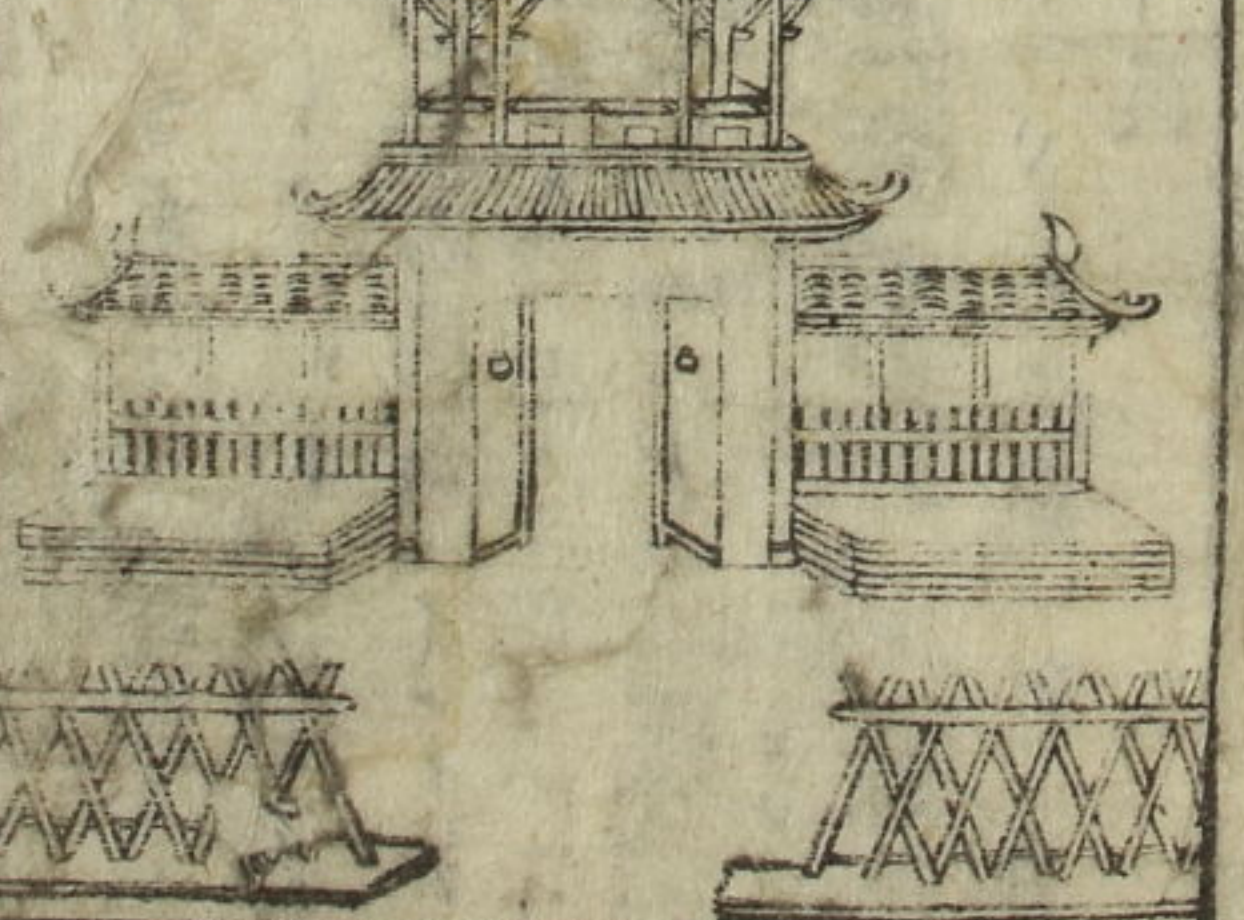


解

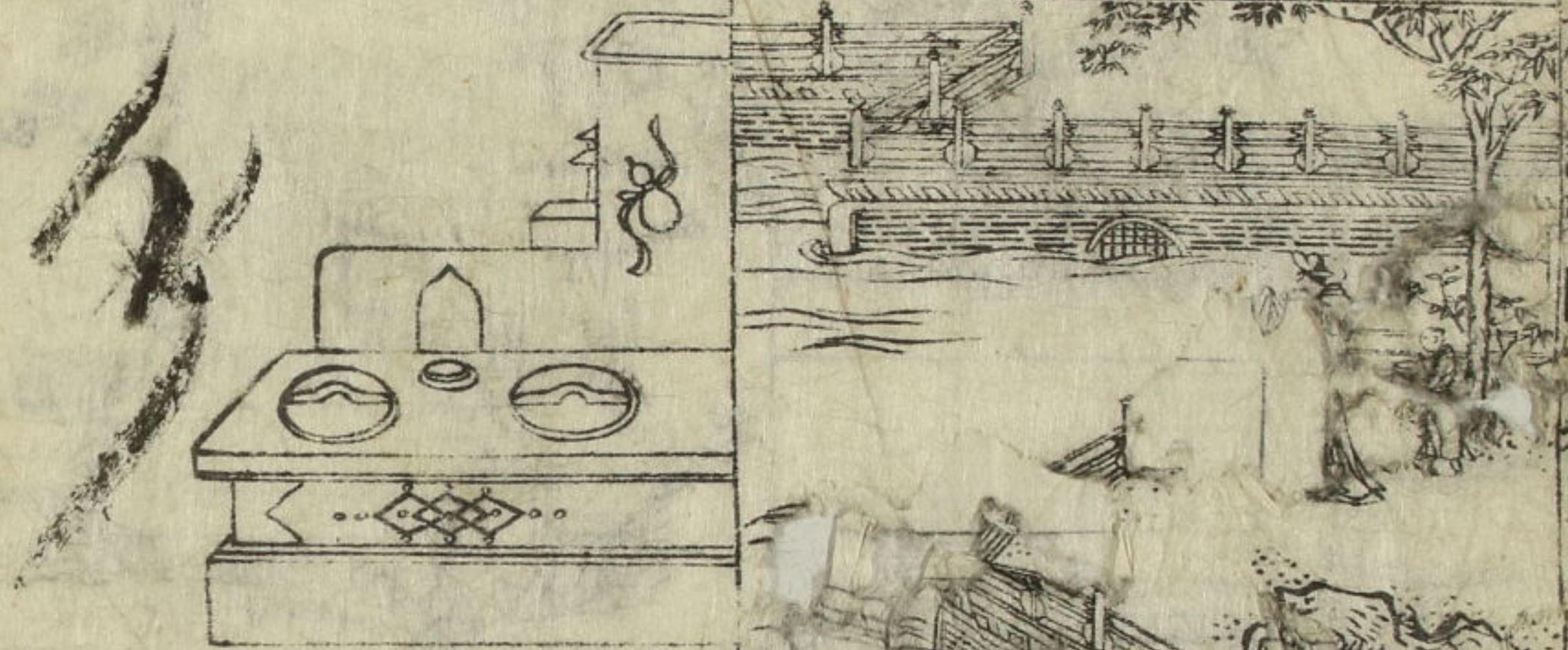
百畝の居
所と府と
は是れ
から解
官解
府と云ふ

高

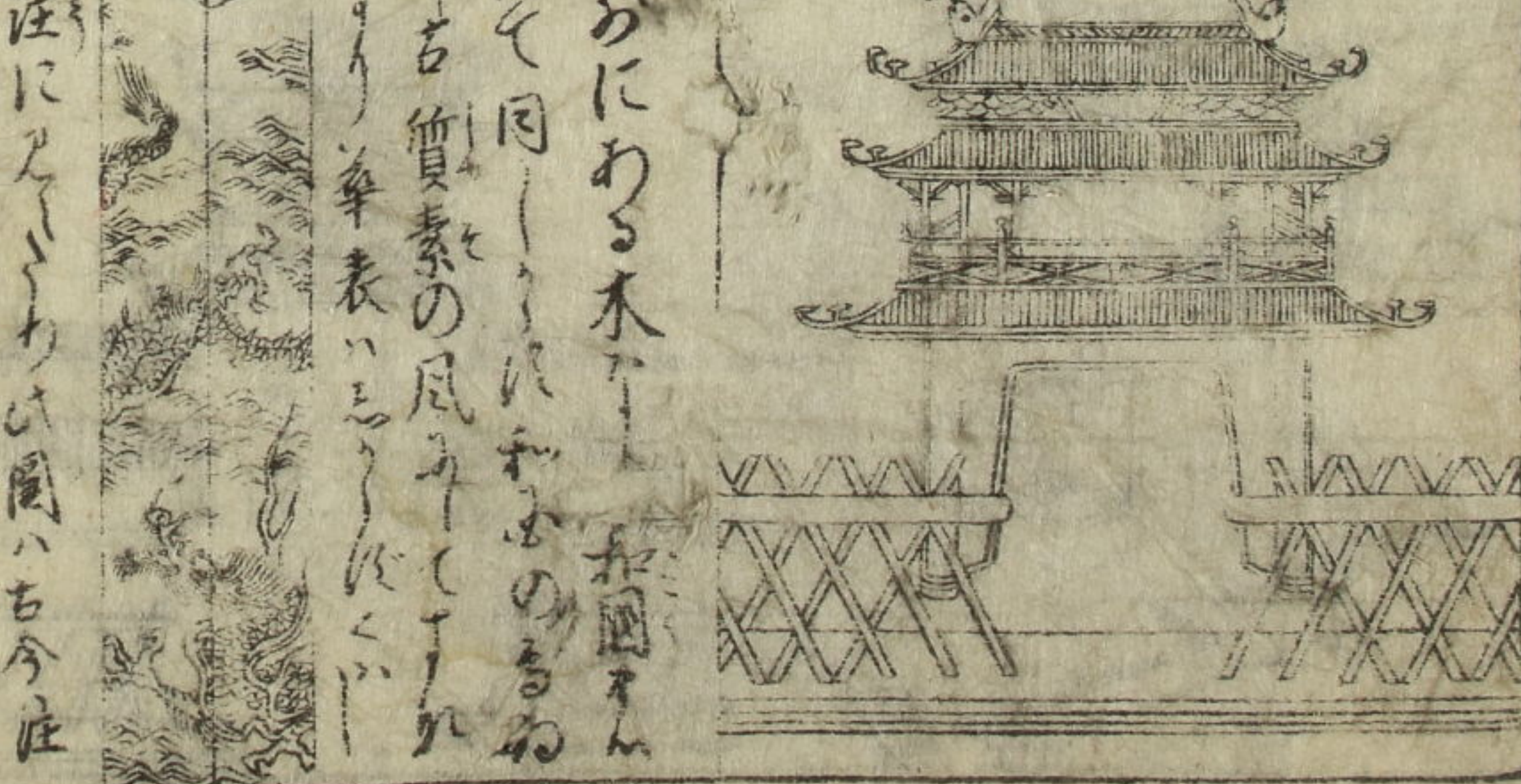
義始
家堅
と制
儀性
共
時
やう



闌 殿
 上りのういよ
 人の水はほろり
 さめはうら
 約欄くし園
 茶の中は業
 欄のこの内
 園接心し
 空電 黄
 帝のつくろふ
 し漢のなま
 電の築は燈
 人造火といへ
 る電ハ今の
 う海をし

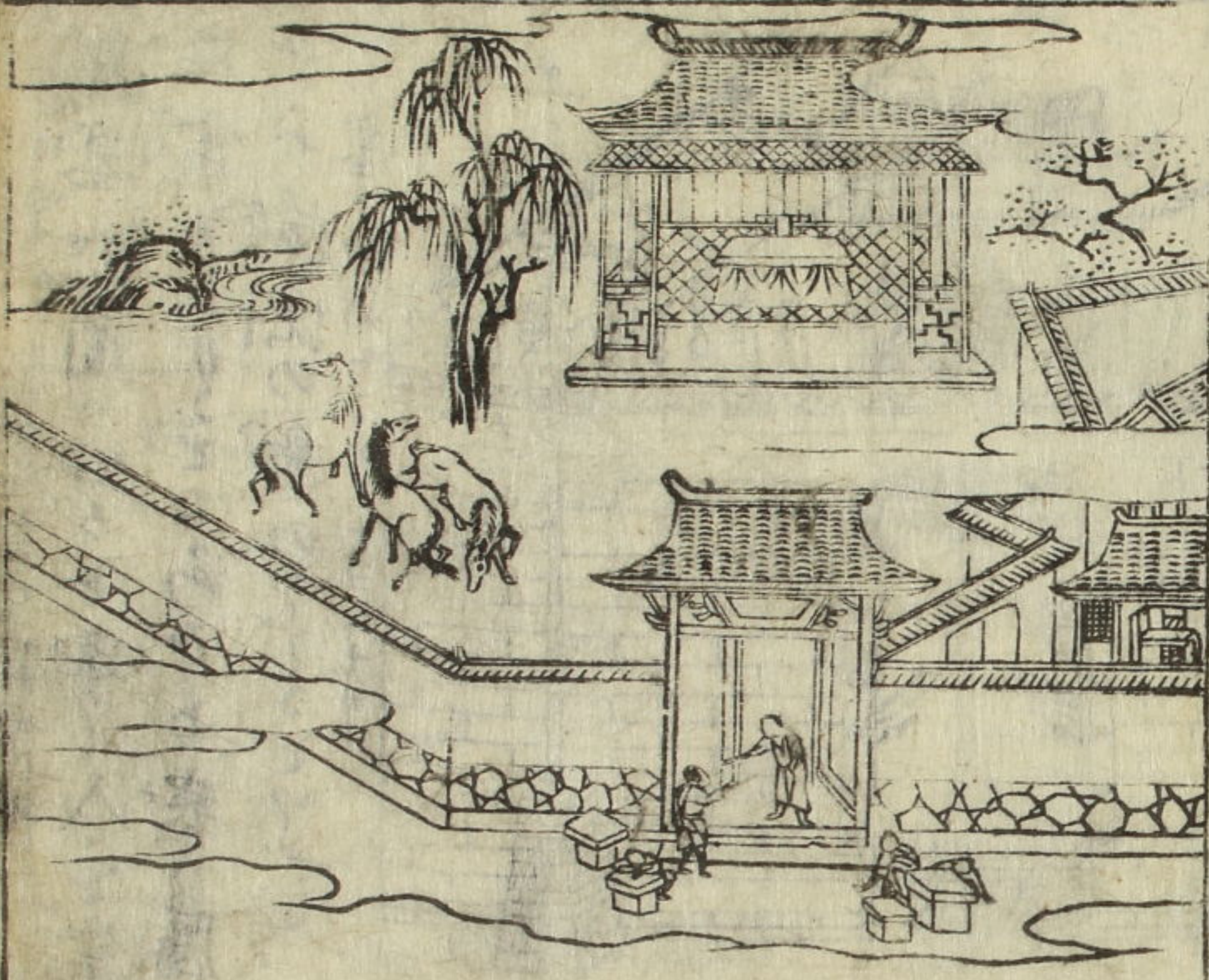


行馬
 今と行
 今と行
 又る場
 又る場
 又る場
 又る場

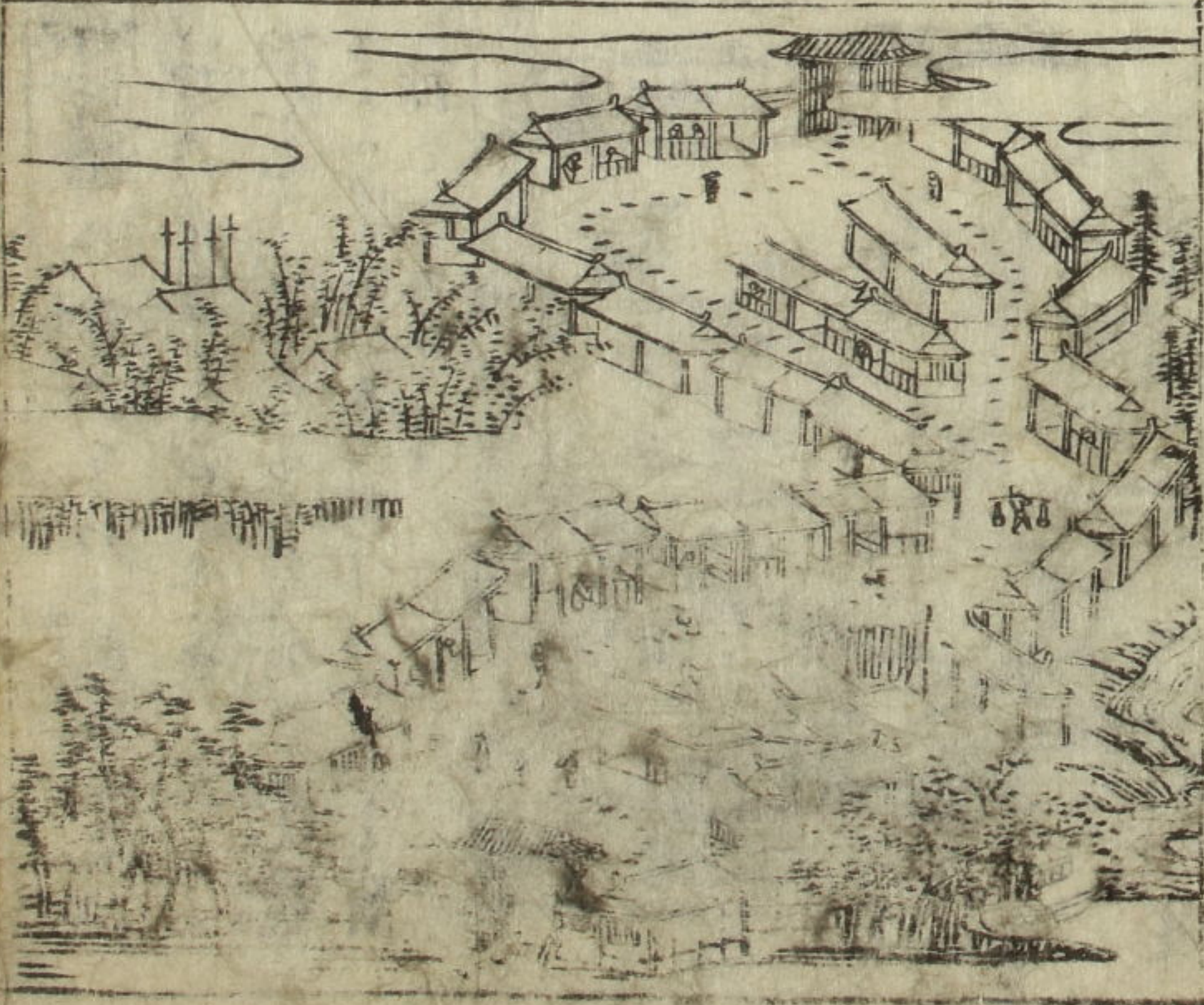


神廟のちにあつた木
 身居に似て同
 のこは上古質素の風
 くら門のり華表
 くは古今注に
 のりむさひあり

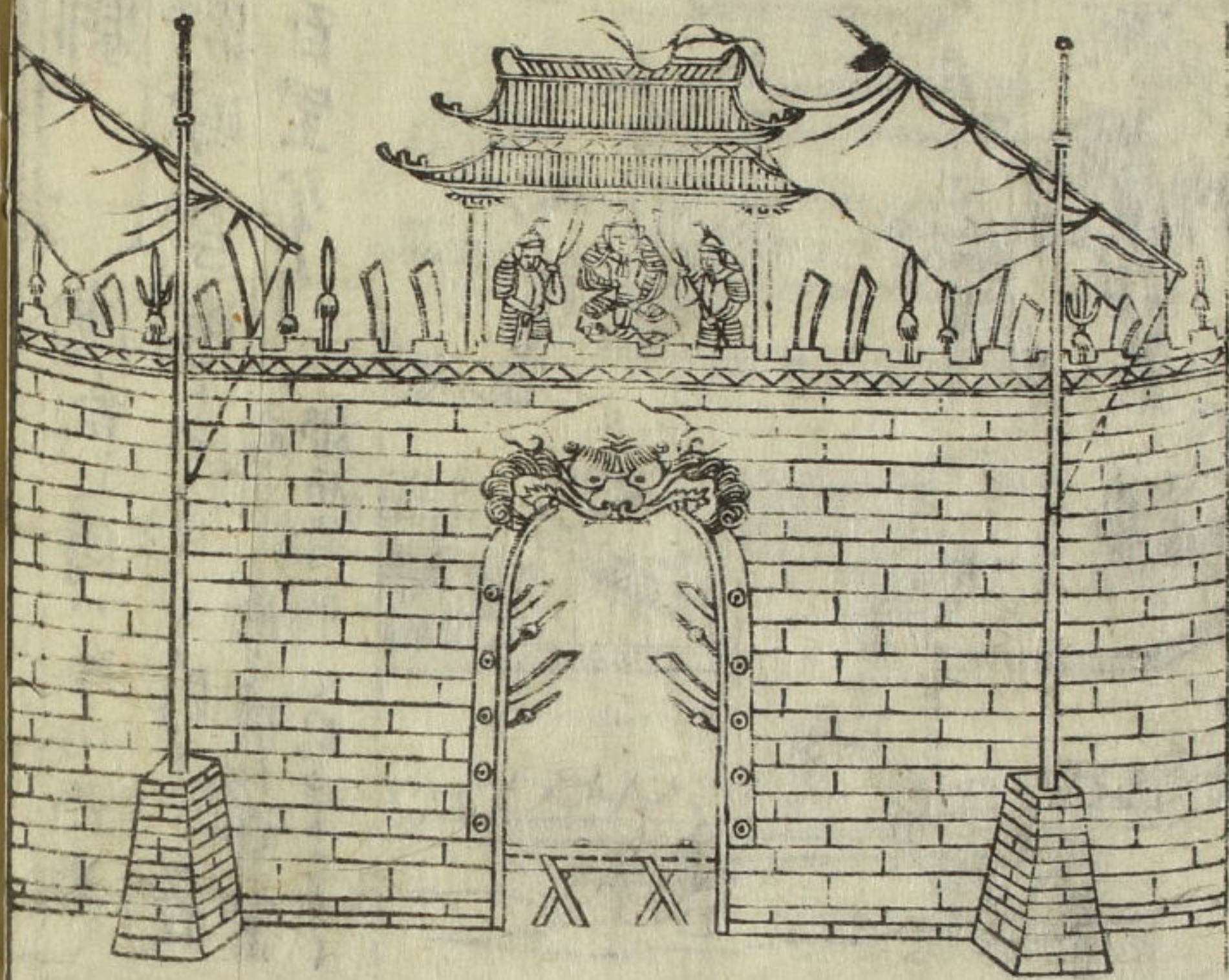
駟の 傳舎
 歩馬急遽
 百里なり
 孟子の徳之流行速於置
 郵而傳命とのりも



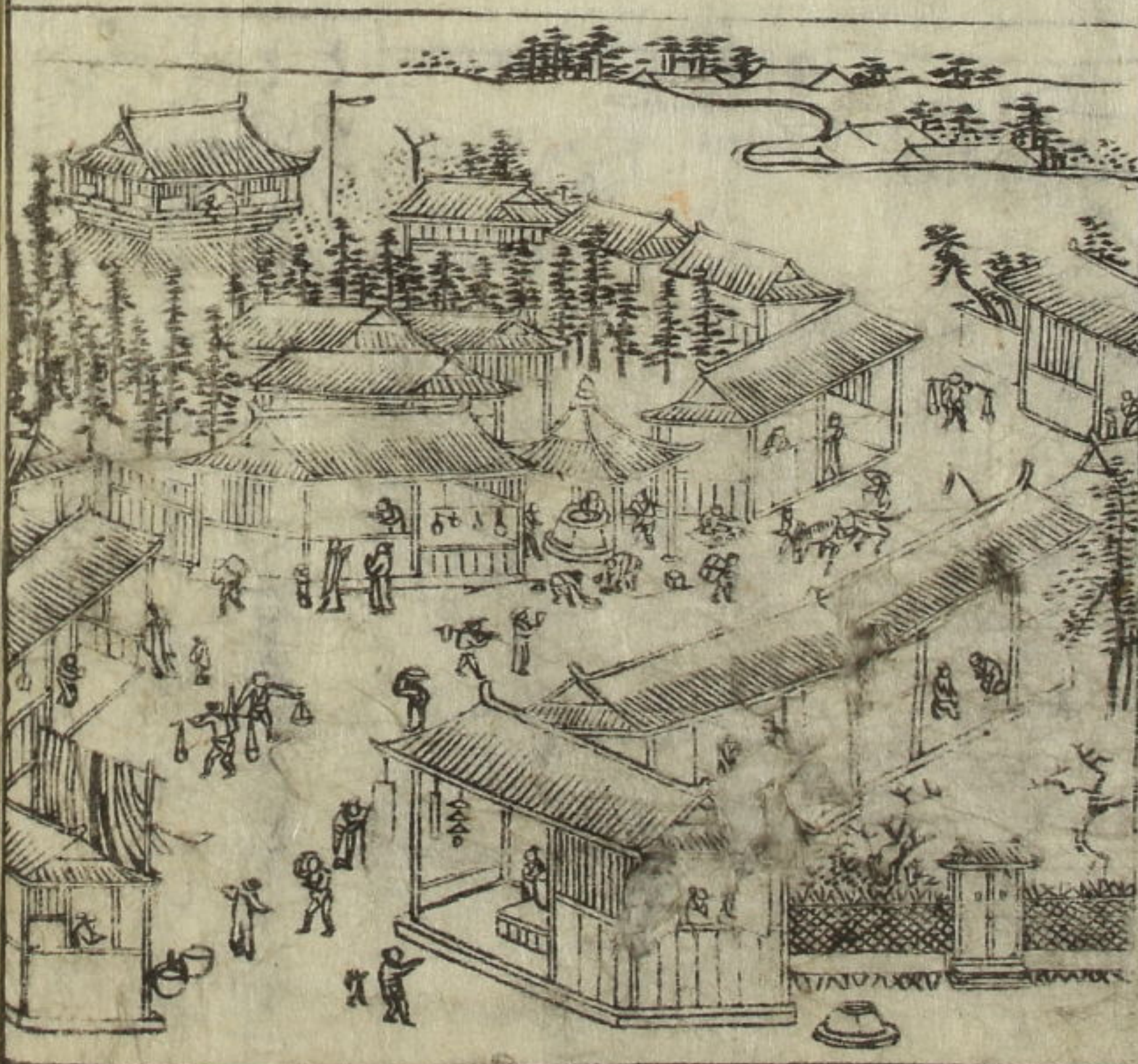
郷
 周礼の百家の
 とは郷といは
 との意し又方
 とのり



關塞 關塞の圖は城と家入と樂非常とまりのこころなり寒の隔々々城の邊のふととつし
の塞ノ和訓コレチトヨムナリ



星鋪 肆のうらゝる筈とりらひ
第の更夜にうせうを本城又ハ
地をへくひさうを列せ最難
うらゝるの繁とて故に星貨
浦といふなり



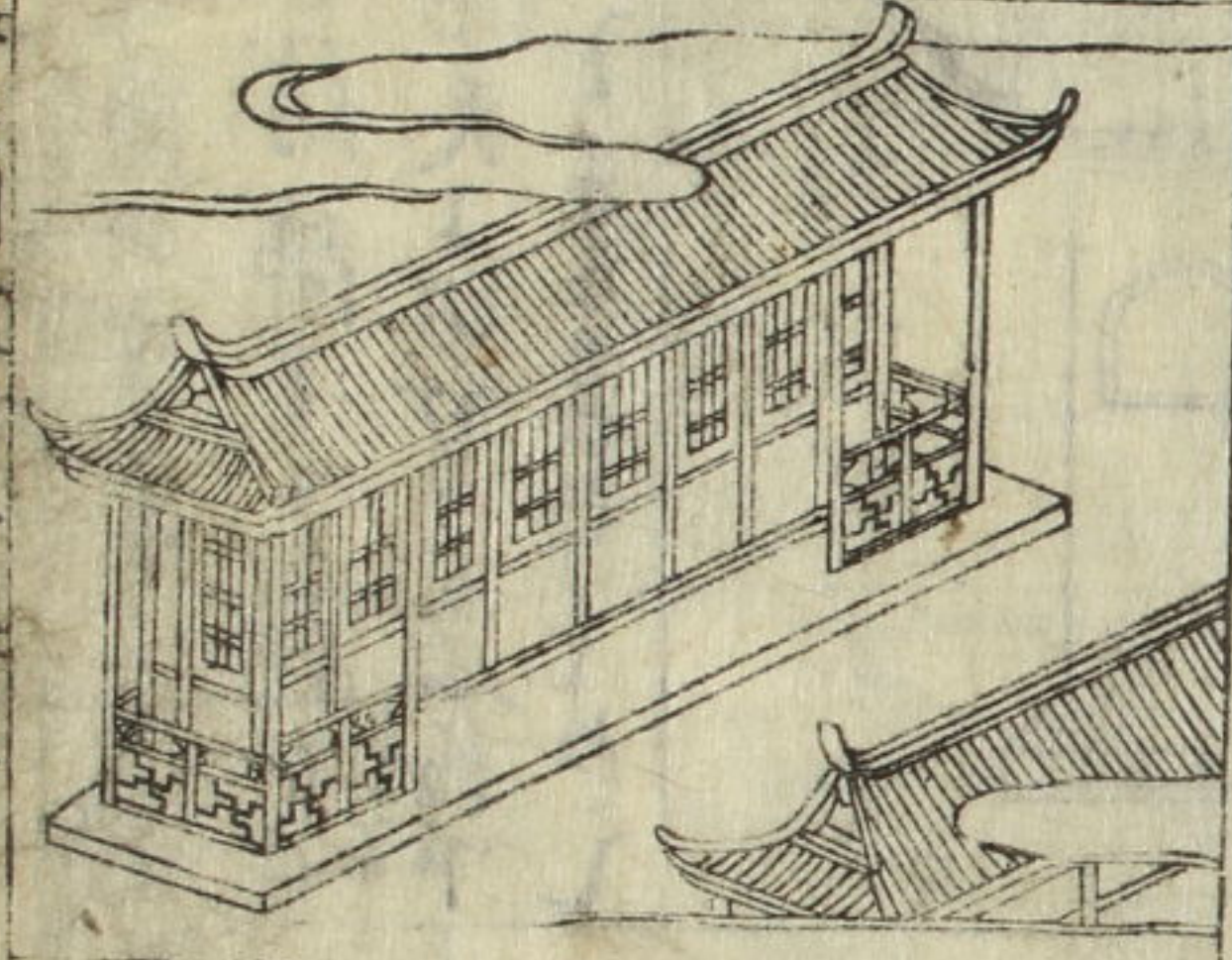
坊 坊ハ方
と流と
文廟乃
名漢の
時より
くまら



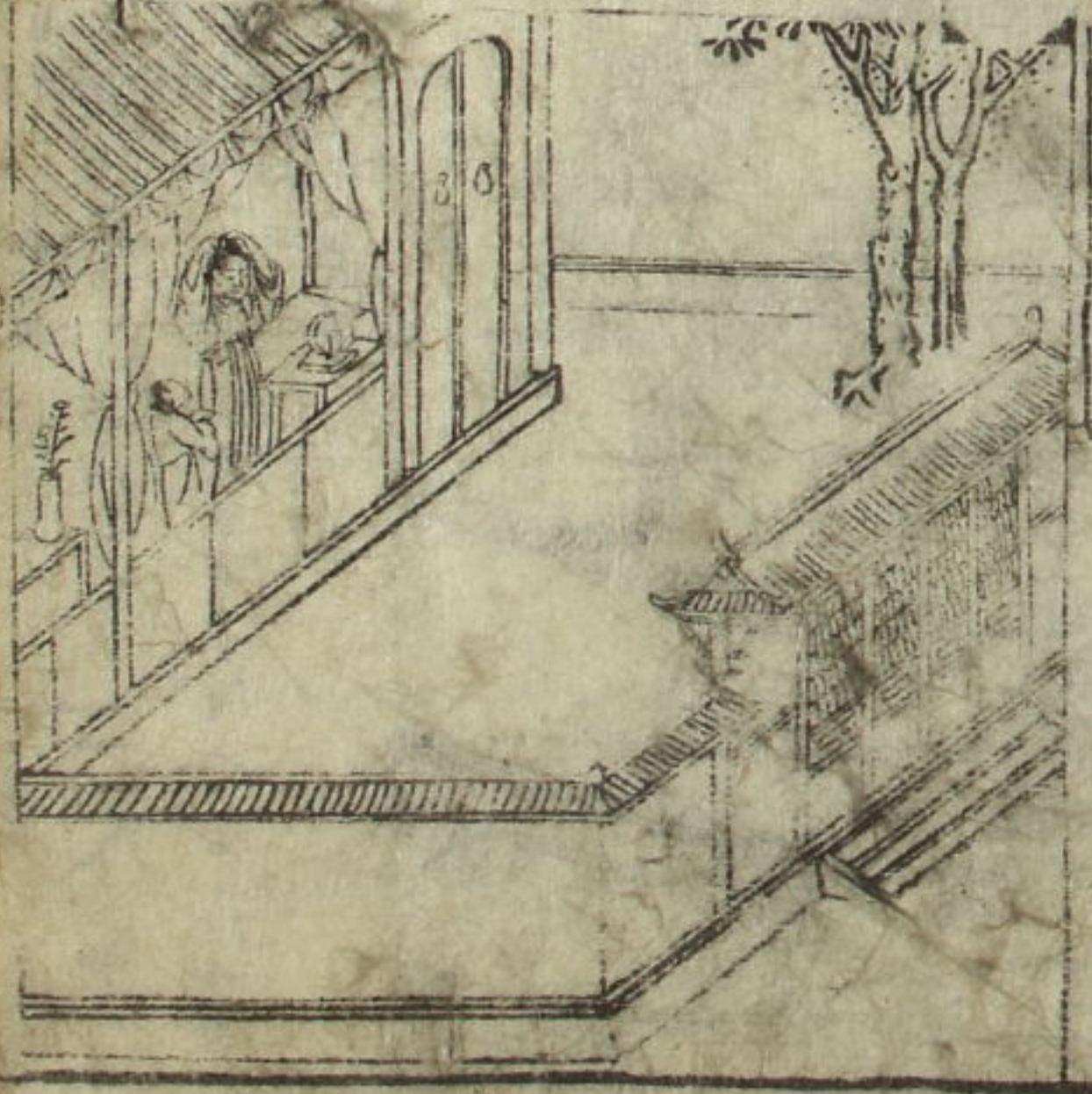
具室 宮中乃
織物乃
際練を
つらさ
不といふ



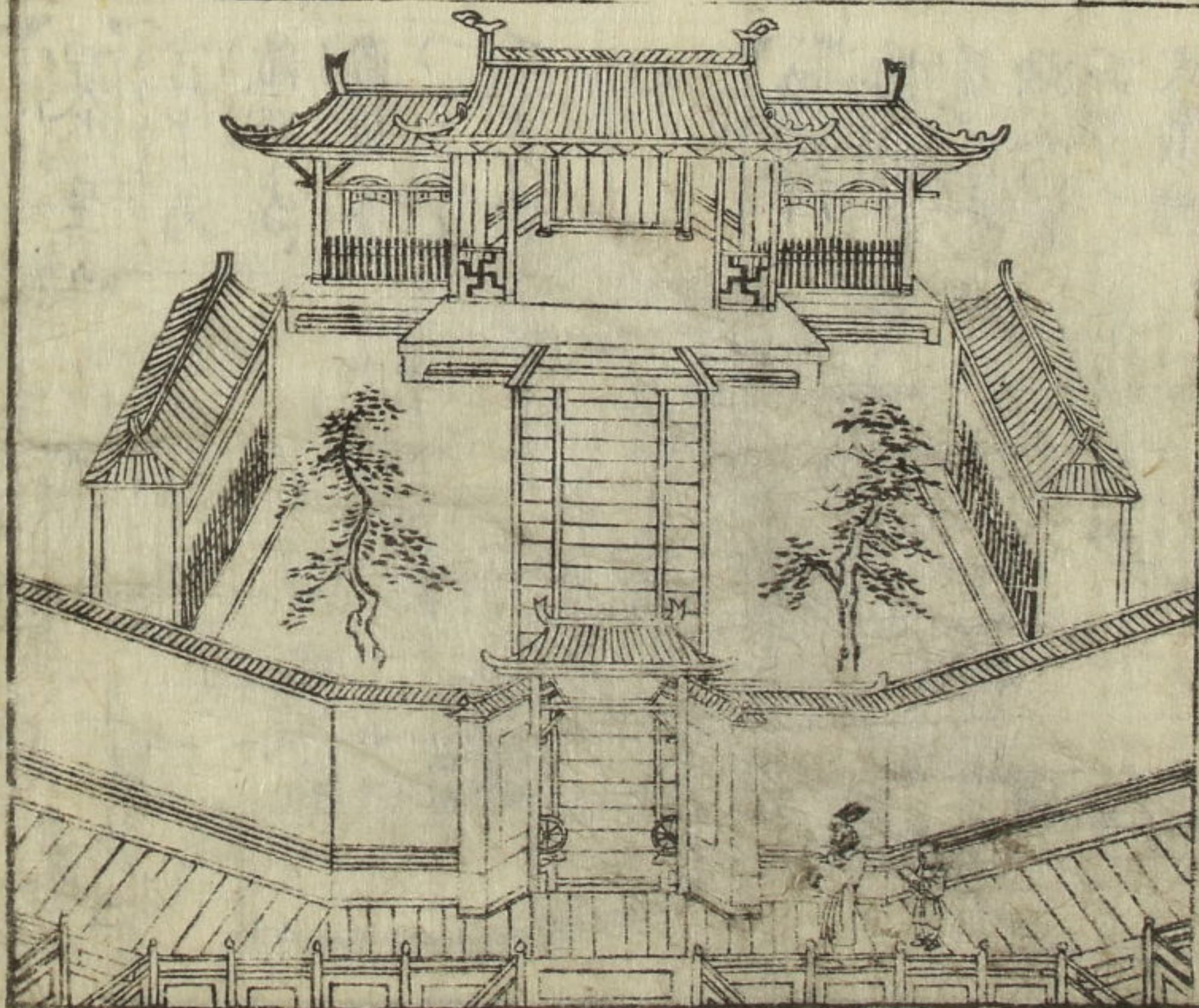
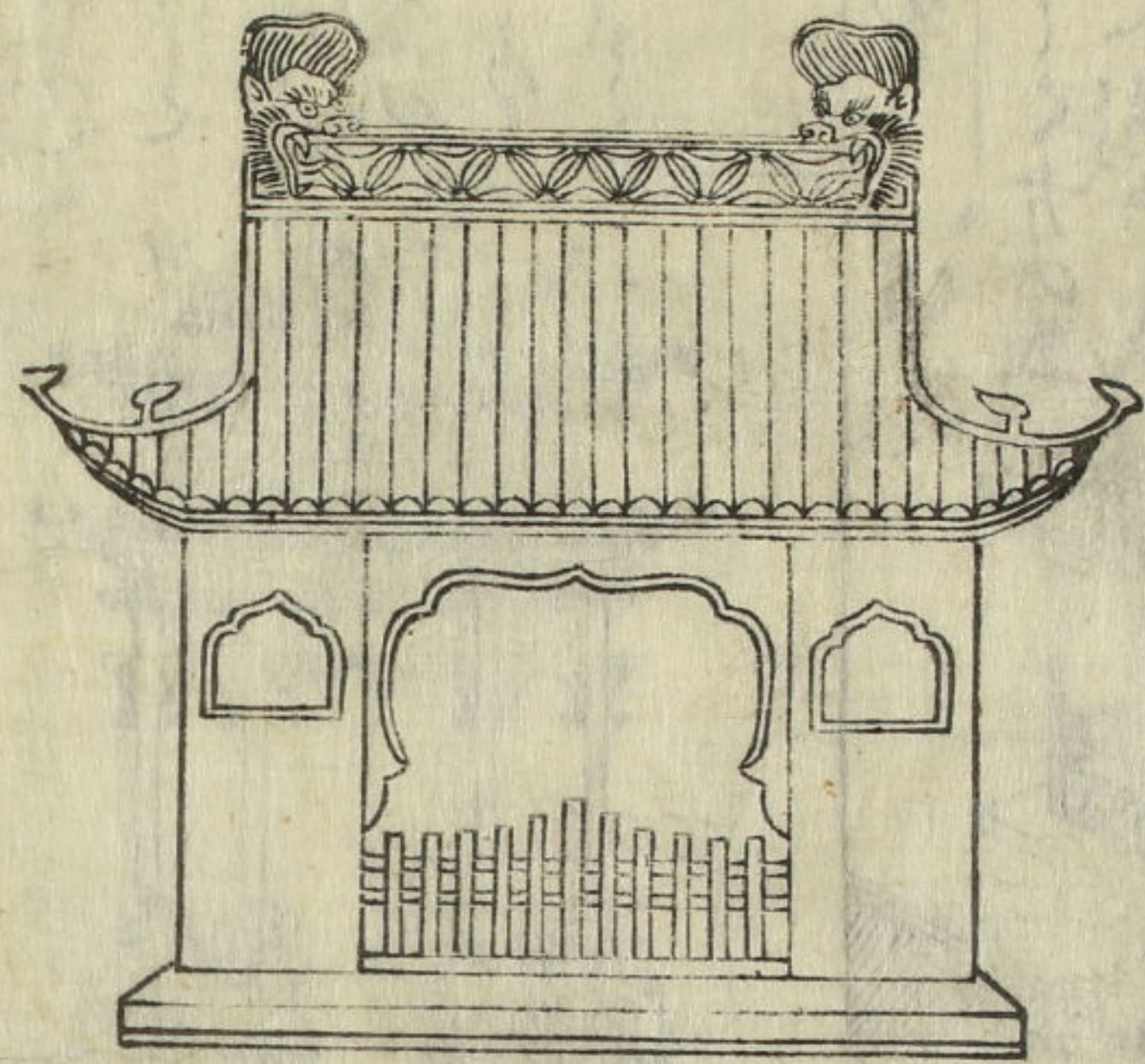
房 房ハ方
同く方
之又房
之義
かして
風雨
燥
湿と
防也
宮室の
制
中央
左右
を
房と



帷薄 帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也
帷ハ幔也



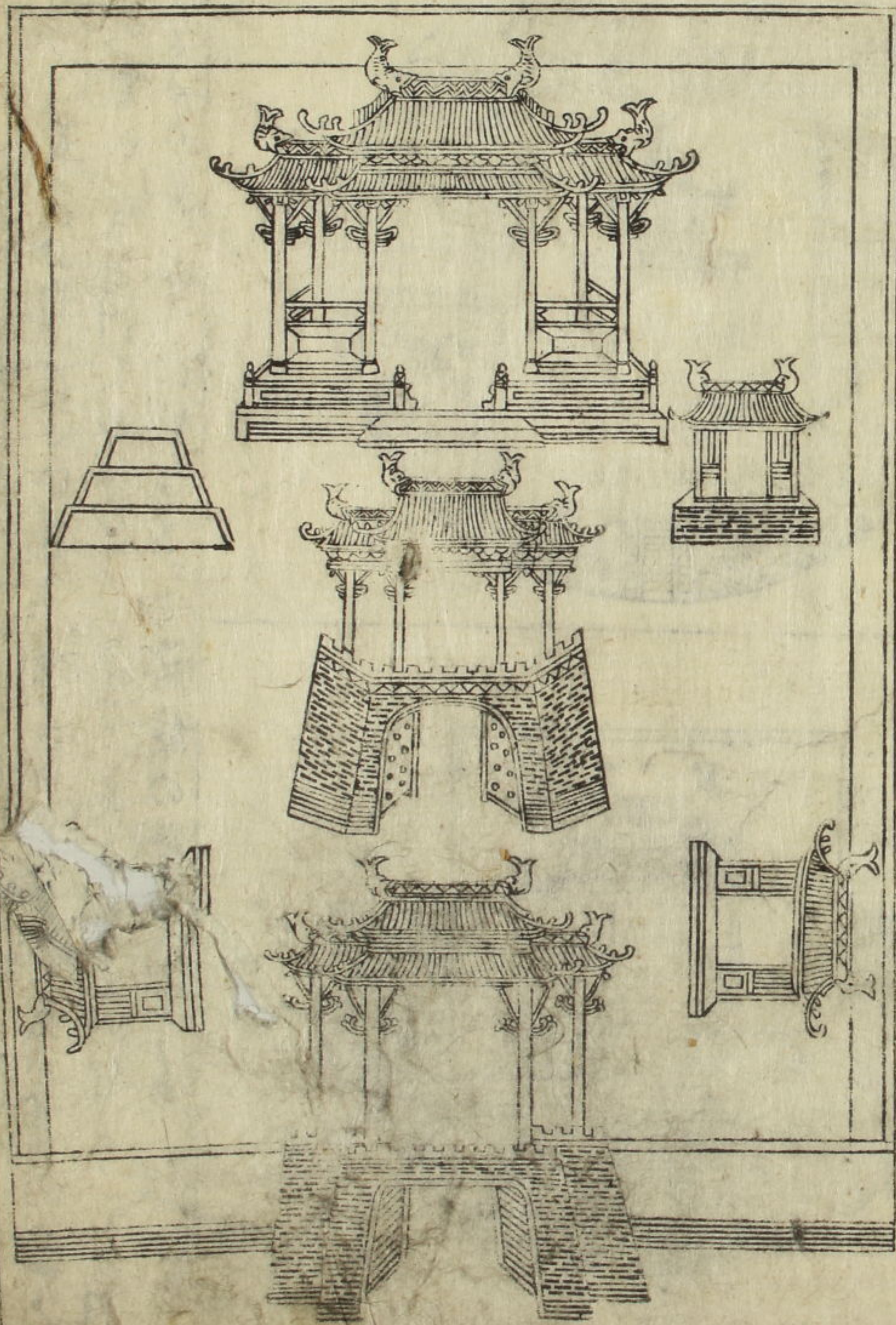
廟たむけ 廟たむけハ貌かたちの字義あやまにて先ま人の靈たま貌かたちと彷彿たがひとる故ゆゑなり
びりひら大おほ王おほ岐きよりつりまひ室むろと築たかまた廟たむけと比ひし
遊あそ慕ぶくく祠やしろと立たる其そのくくびりひら



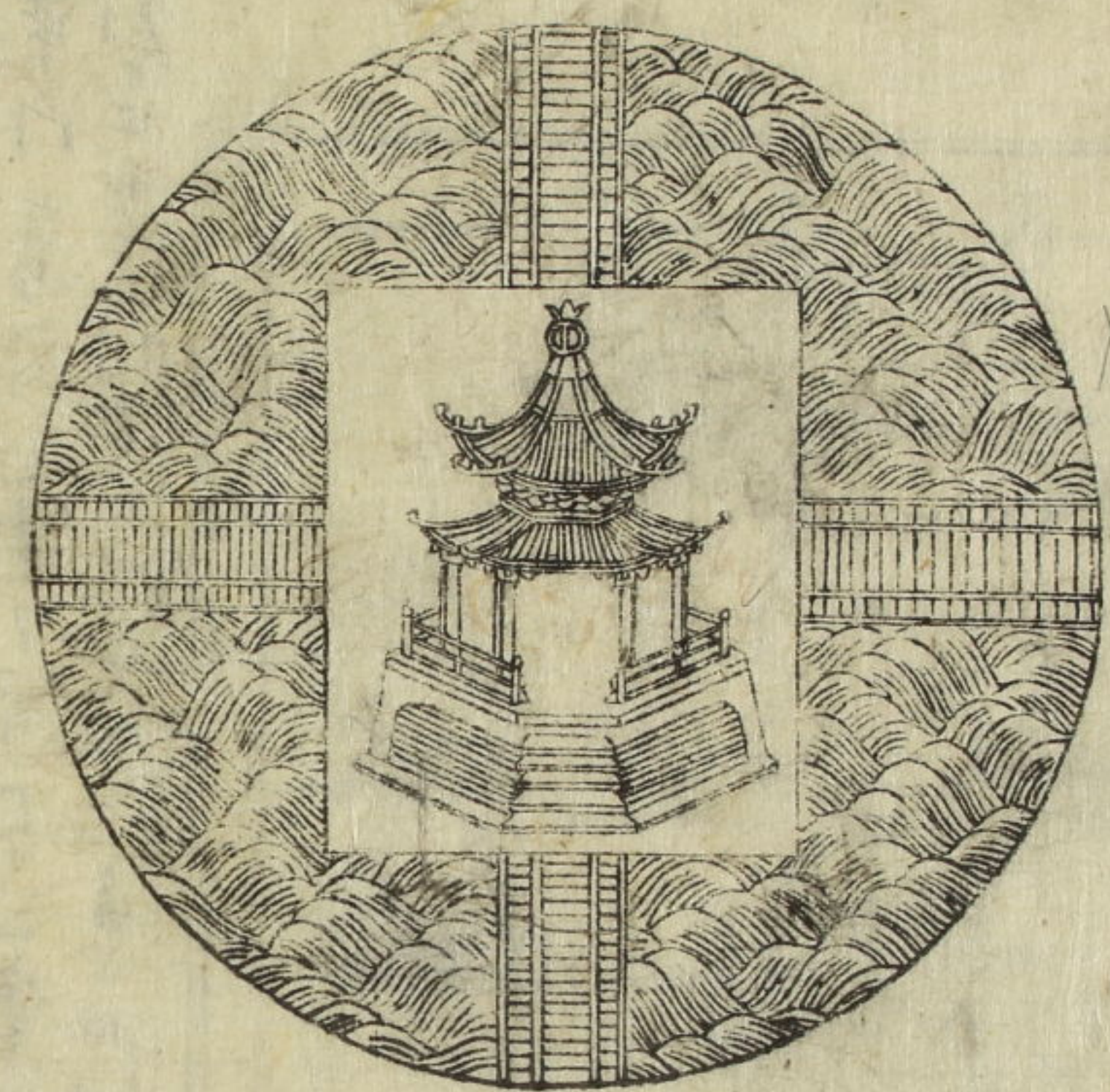
學まなぶ字あざなは帝みかど學校がくなり上天あまの子こ
その下したに人ひとままいりてりままくくつつひり
その學まなぶをを形かたちなり

鼻門はな應門おう

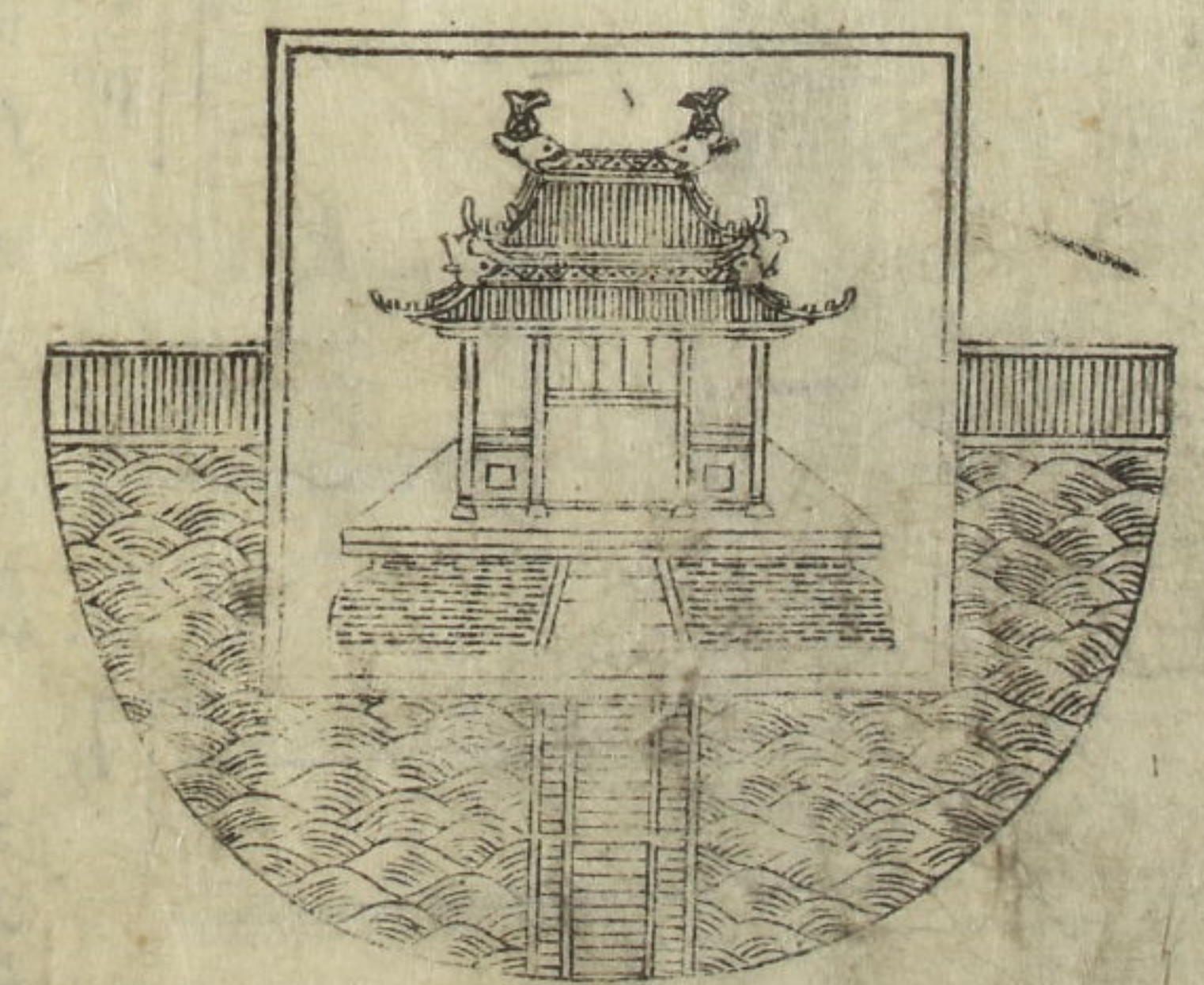
びりひら大おほ王おほ岐きよりつりまひ室むろと築たかまた廟たむけと比ひし
鼻門はな應門おうと建たる古ふる公こう稟れい父ふのち大おほ王おほと比ひし
門かどを鼻門はなといふ正門ただしを應門おうといふ而しか天子てんしの門かどなり



辟雍 天子の狩と字ひれを
めふの取し水と引て四方の
しくこころり観るやうに橋をさし



泮宮 泮の義ハ半の字と
通し天子の宮に於て此の
諸侯の天子を合する



田廬

民の家をよ
中より大なる
を畜ふと時
より五畝の
宅二畝半と
廬と二畝
半と田と
右制なり
守舎
田圃とちり
小屋ここ
のれんけ
ととふせ
とんま
るの
まり

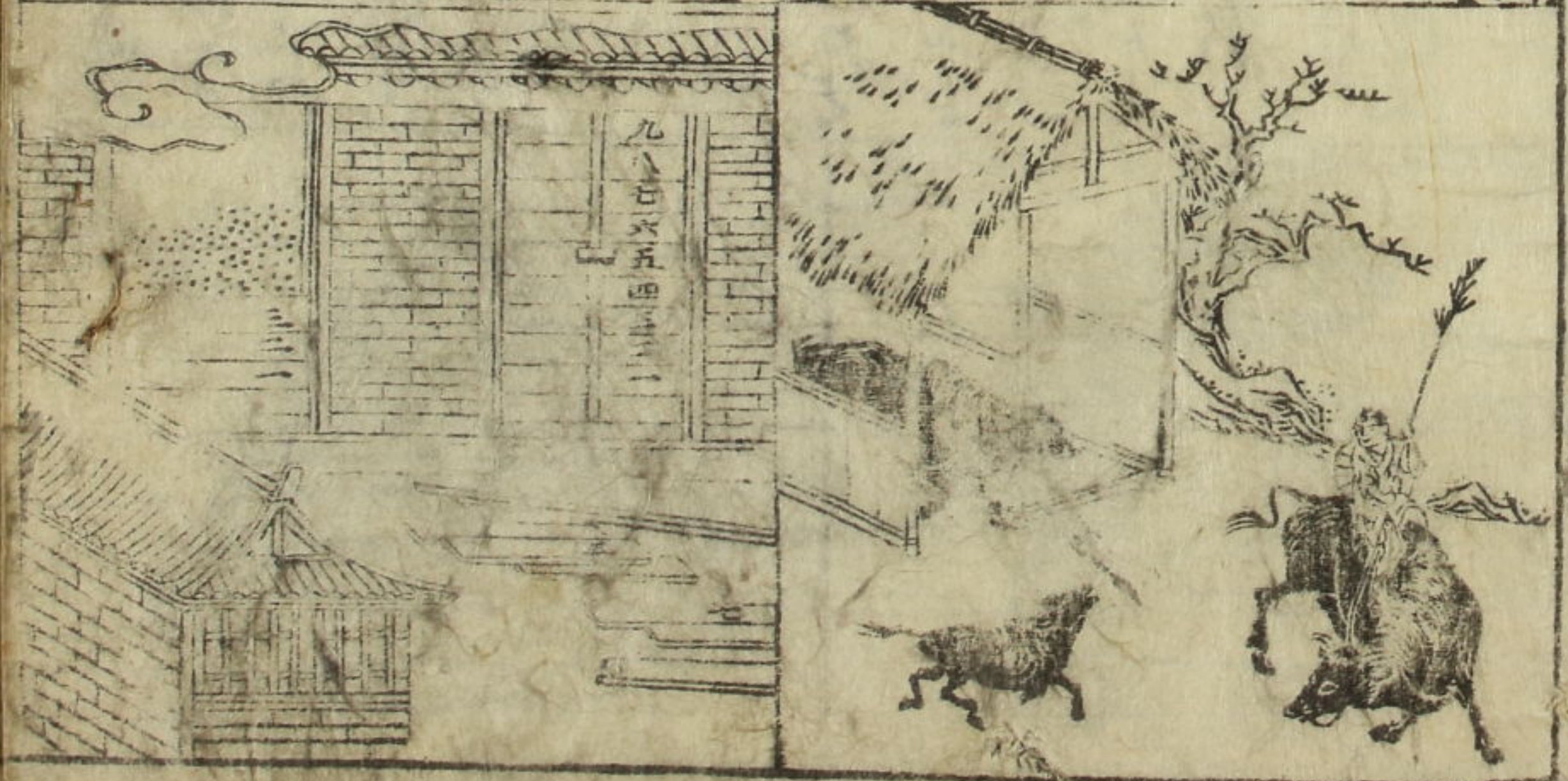


牛室

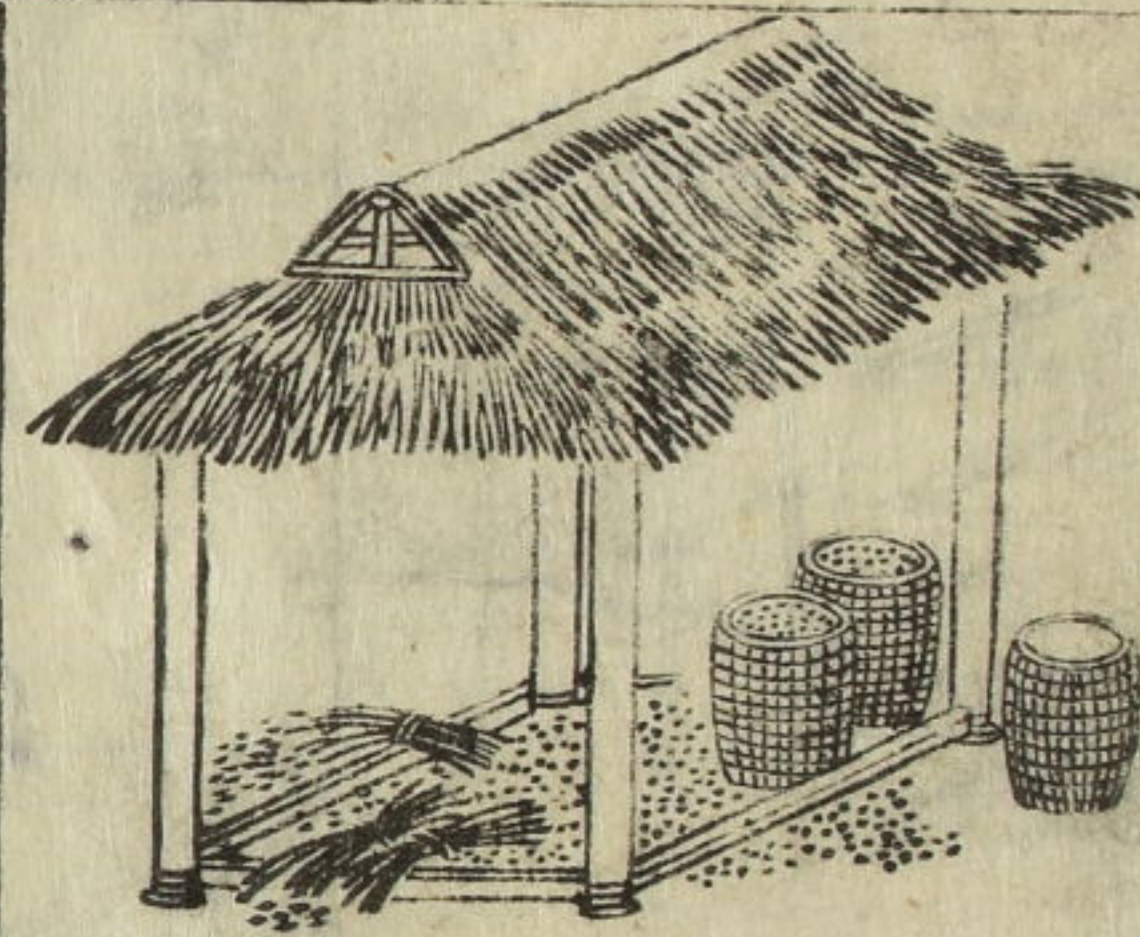
牛とりの
こころ横と
とら
室

倉

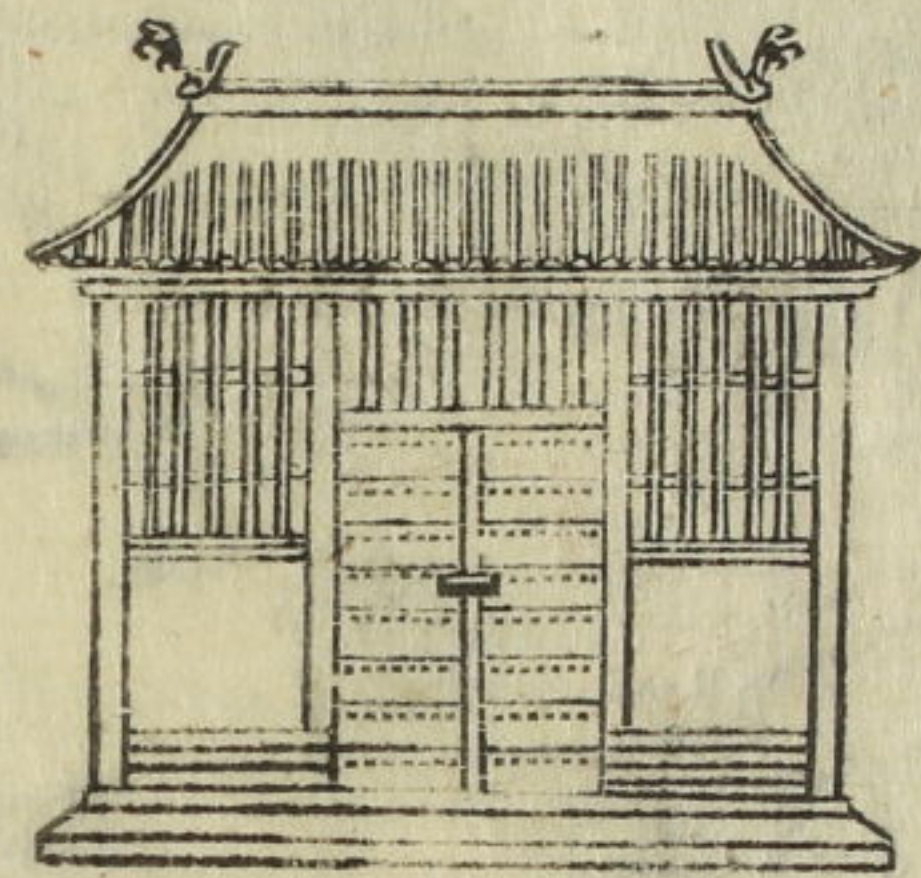
五穀を
おさむる
處の総名
を倉と
りたり



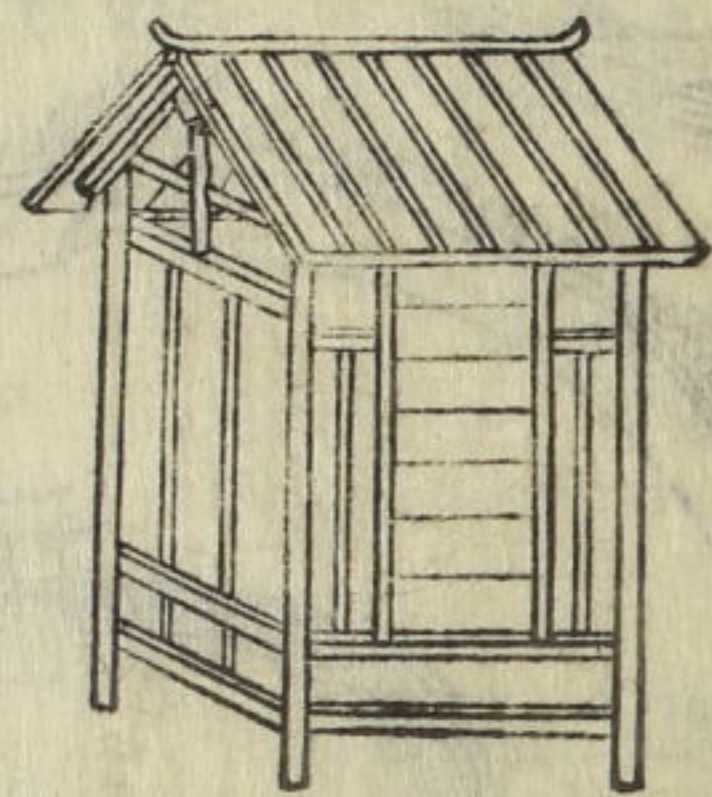
廩くら 壁てい
なぐやぬころり
わくとりよあり
廩倉くらハ五穀
とるる所の
也なりなりも
いへり



庫くら 兵へい器き
金幣かねあくと
せしつとよ
書かきといふ
文庫ぶんと庫くらハ
湯武とうぶのと
五庫ごくらと築つくて
五兵ごへいと築つくる



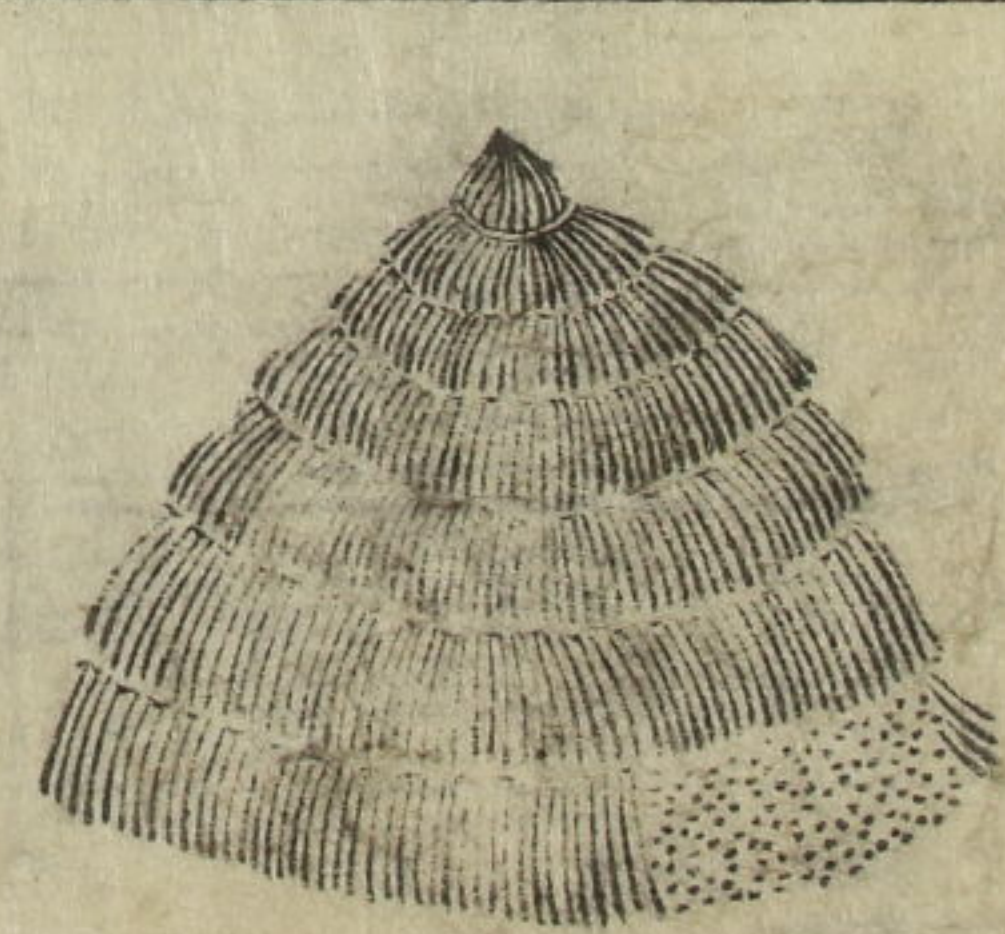
京くら 方かた
けりといふ又
原はらの字なハ
京くらハ高たか大おほ乃なり
義ぎといふ
いへり



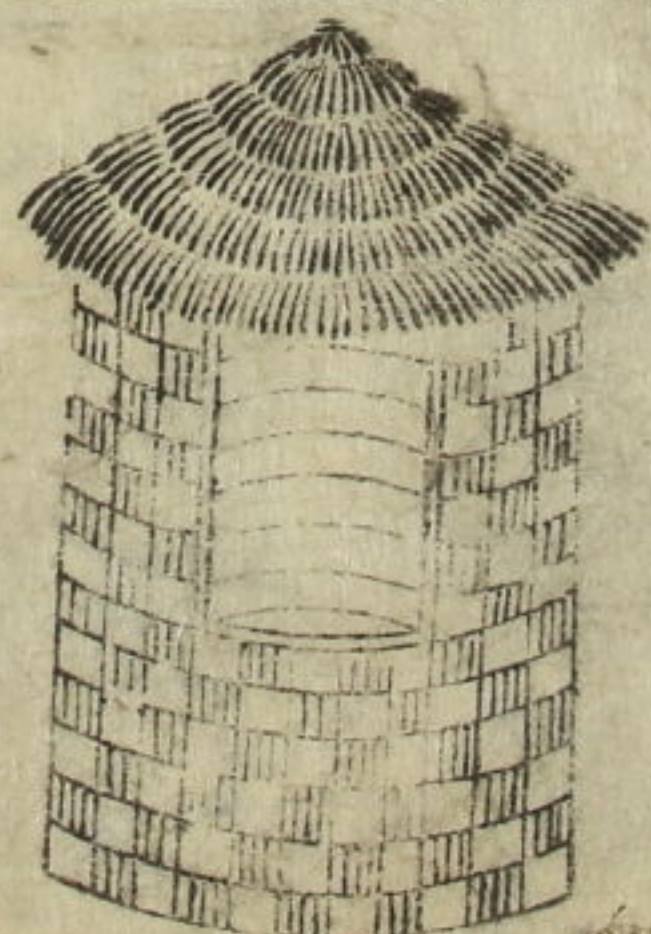
賣くら 納のり
小こて腹はら大おほ
よして外そとへ
と穿くて入いり
しつといへり
空くわと仰おほり



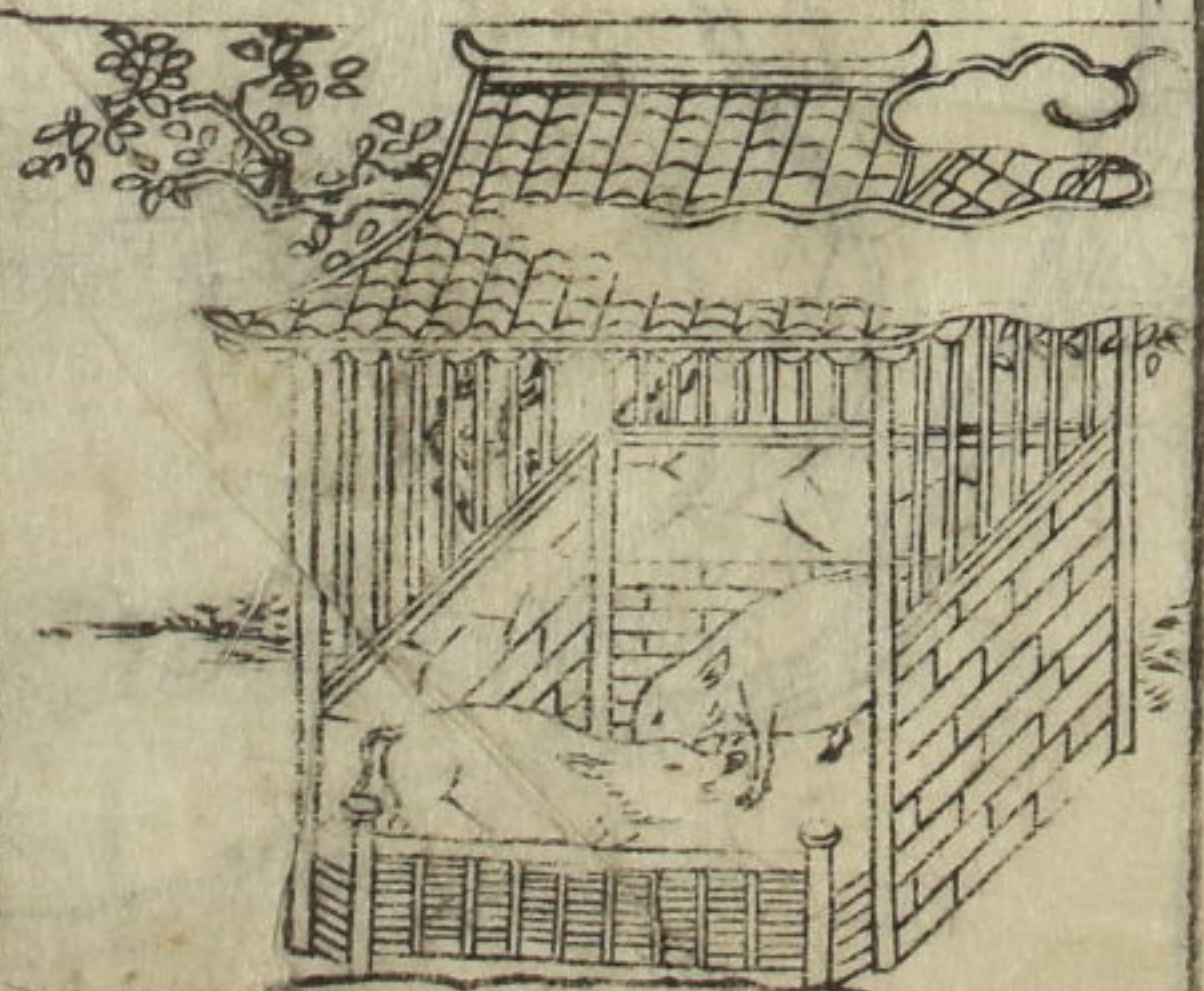
廩くら 壁てい
なぐやぬふ
くらといふ
いぬりな
はつたり



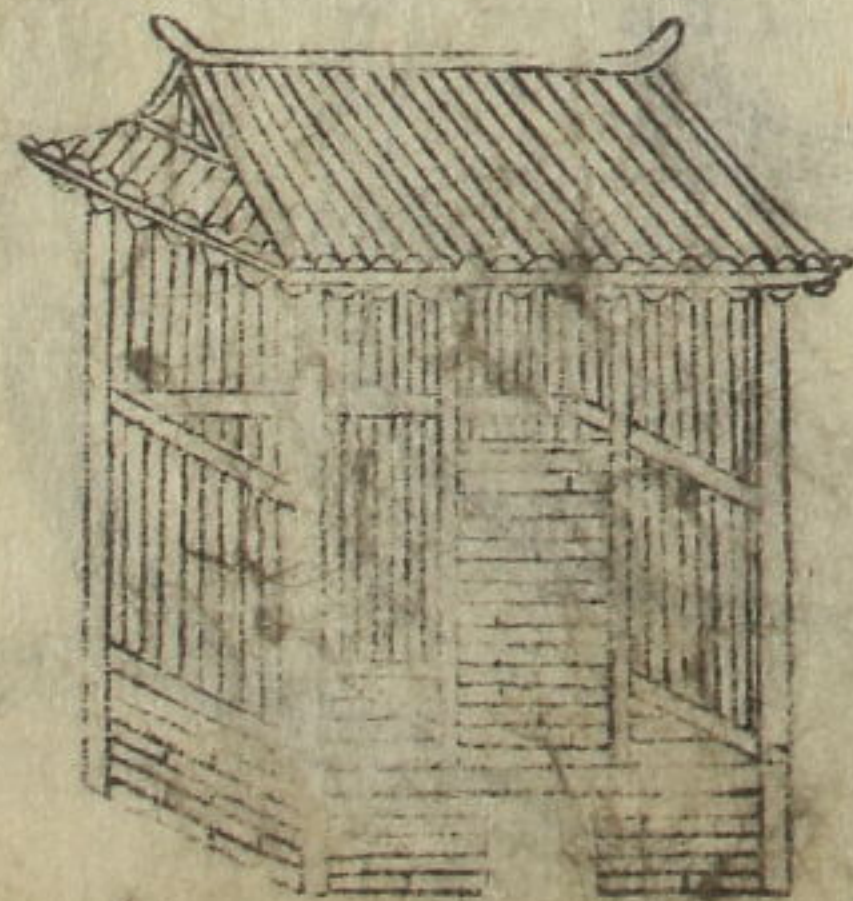
圓くら 丸まる
建てたてて
みくらといふ
廩くらの圓まるなり
と圓まるなり



園くら 牛うし
豚ぶたの類るいといふ
とありといふ



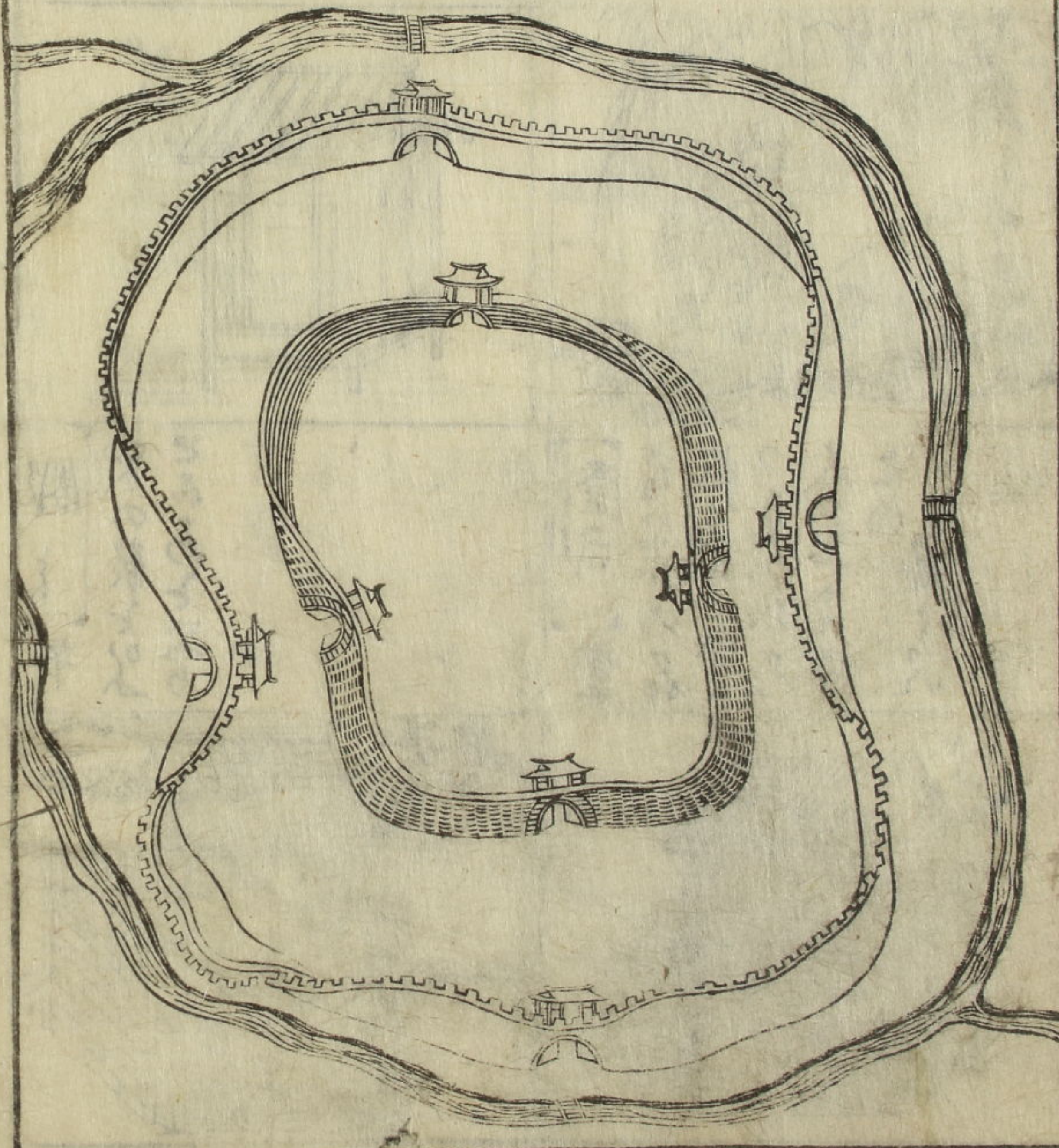
登くら 司し 登とう
司しの林はやしの
類るいといふ
つり今いま乃なり
人ひとあやま
この
名ななり



郭の

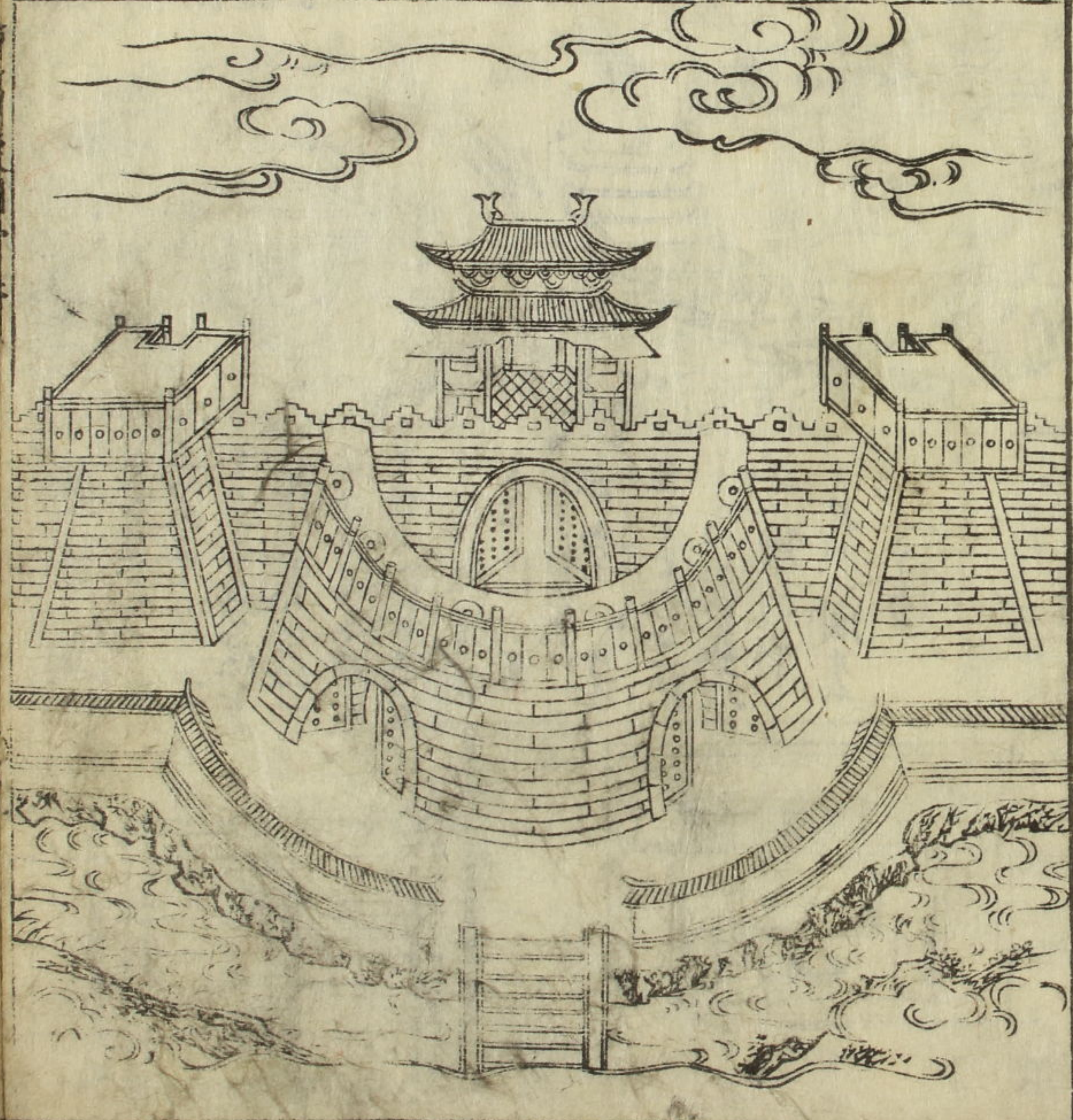
城の介と郭
といふは
縣といふ城と
つらりこれり
よりそ君を
衛王と云ま
りぬ縣と城
とにちつらり
わとよりあり
城といは君わり
郭といは民わり
いすのふりし
らるるのとし
○傾城 坂の君
不とらるる
とも四方より
こもわりぬし
いふを郭といふ

唐土訓考 圖考卷三



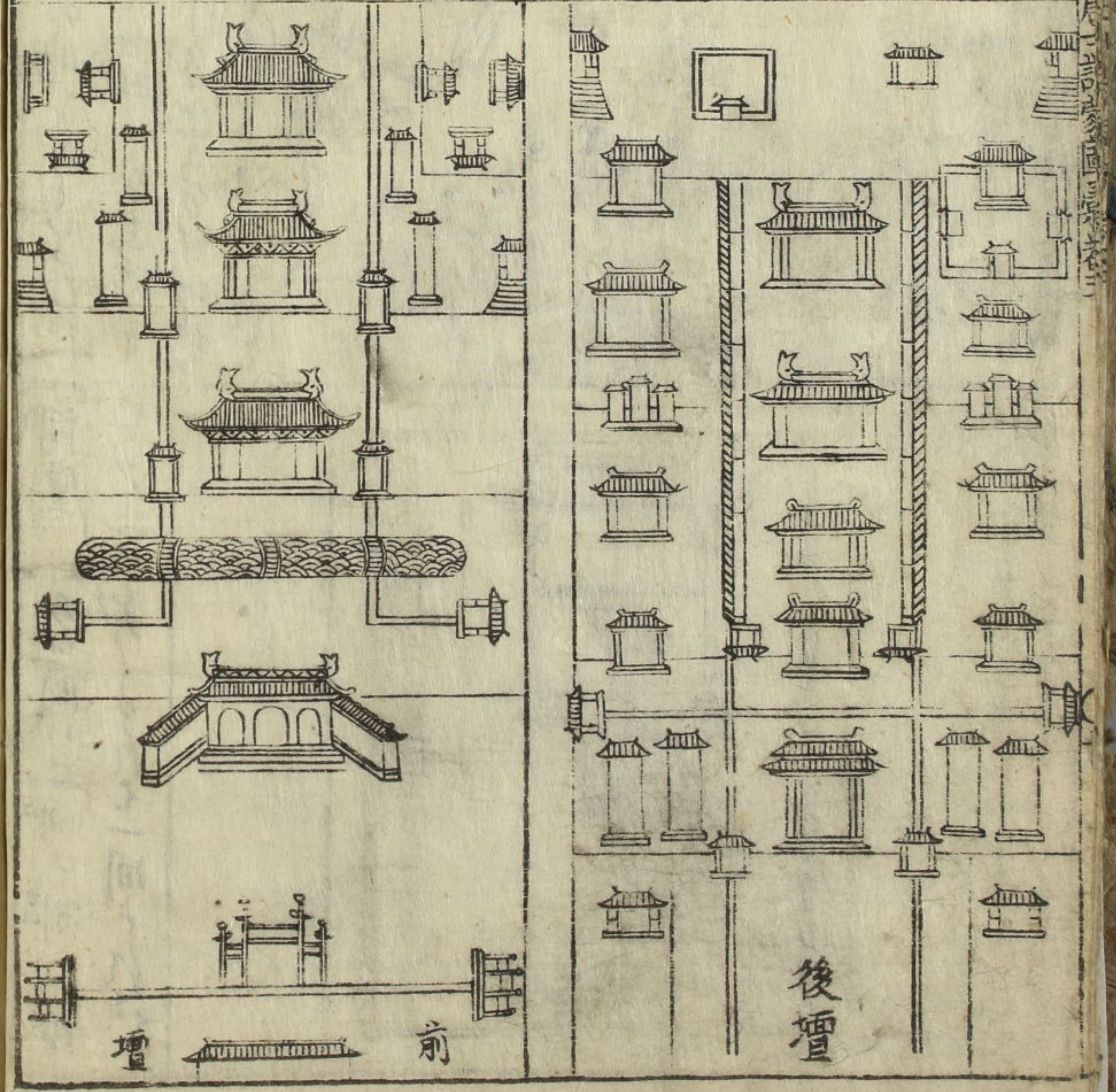
城の

城ハ盛なり
とてさうりに
國初と云ふ
故より城上の
酒と睥睨と
やや、孔の中
より非と
睥睨するを
りくかり
女牆といは早
し七さ子の犬
夫といふは
り



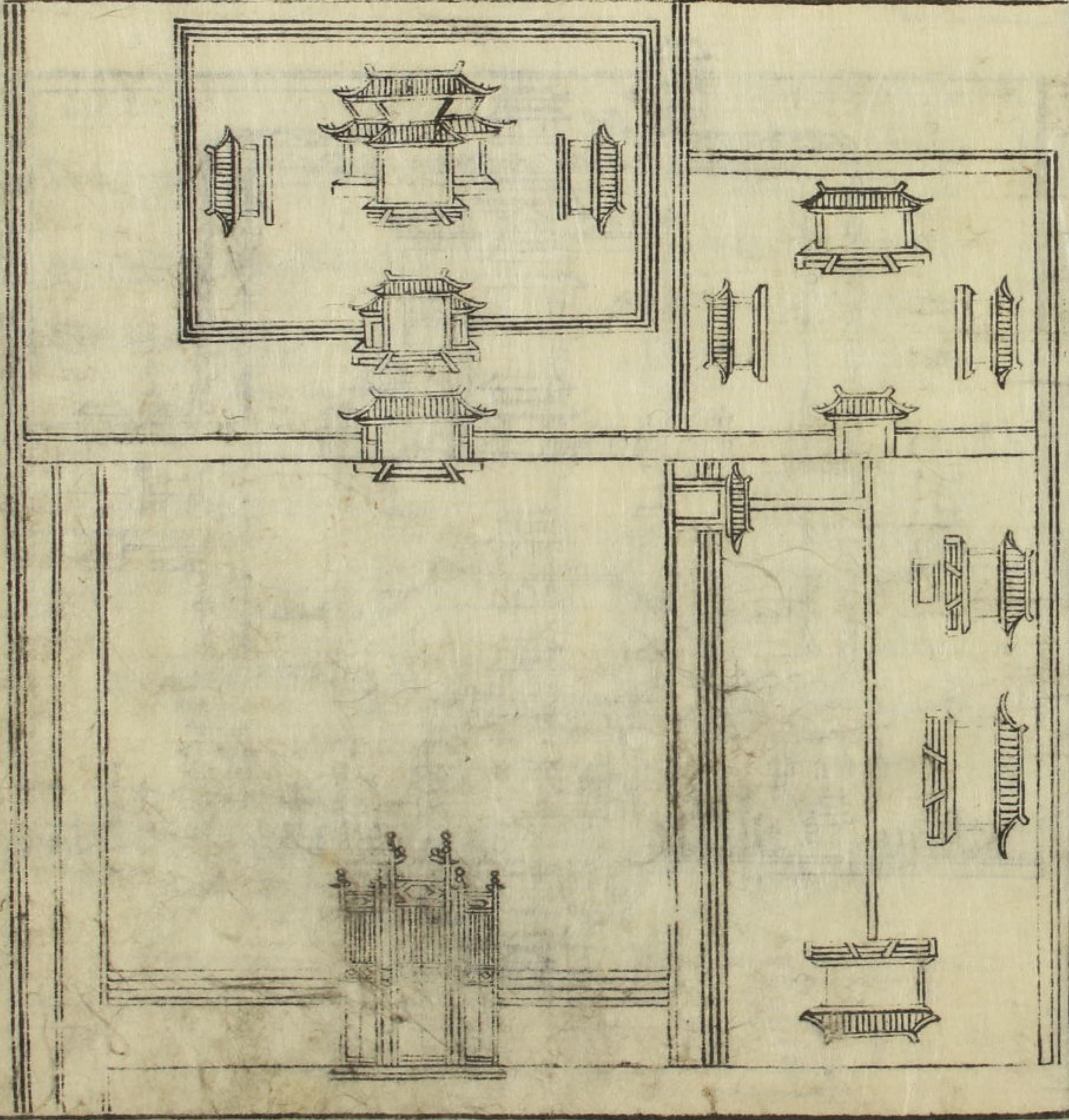
夫子宮壇前
後圖

先聖孔子の廟
充列仙源卿の
西二里あるの
魯城に接する
二百歩闕
里の舊同宅なり
殿門の階楹ハ
あつく記し
季ハ聖
跡圖闕里志
寫にスルハ
アモハ
果のこと
あはれ



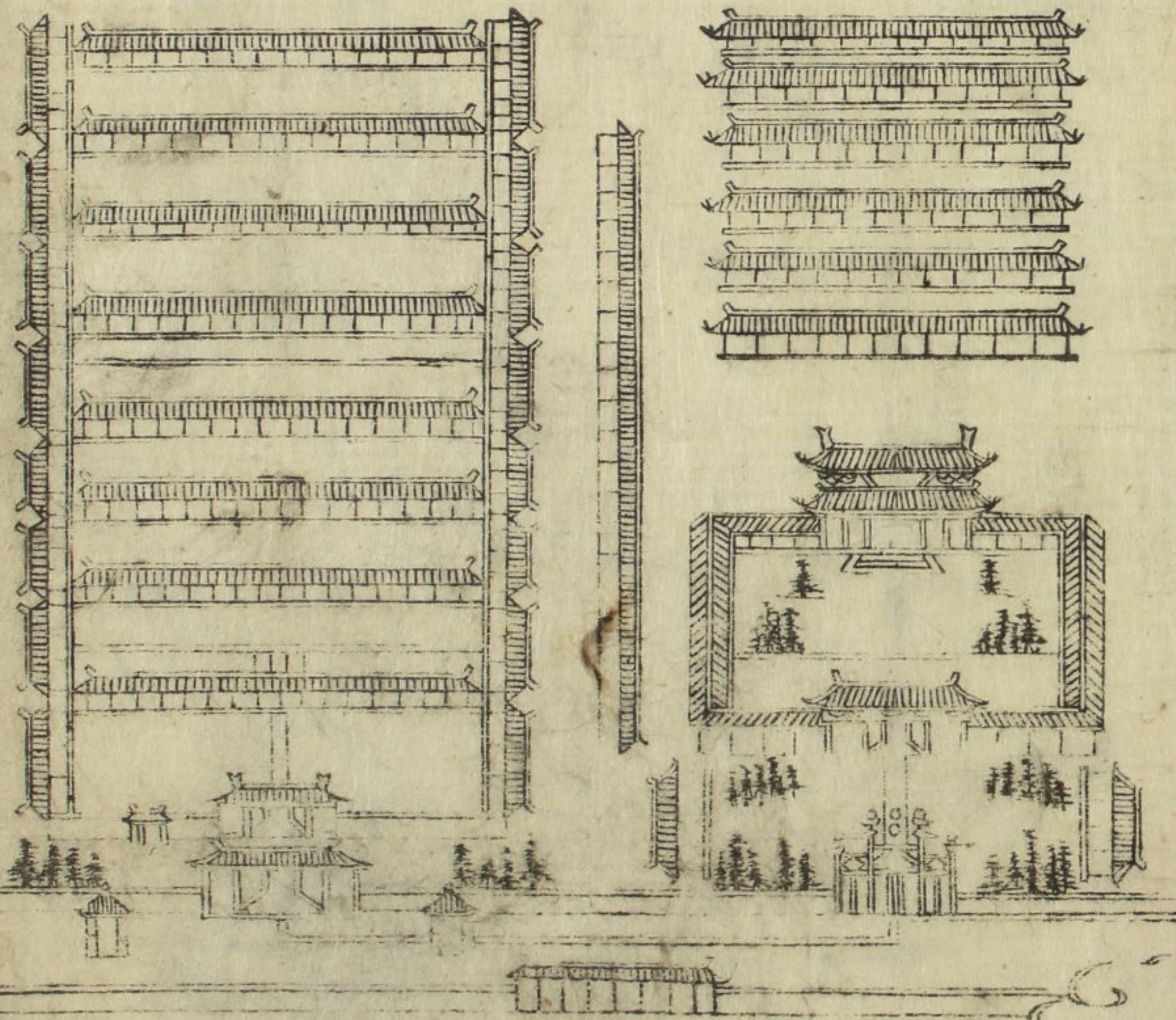
廟
まゝ

これ天子を
祖と祀る所
なり



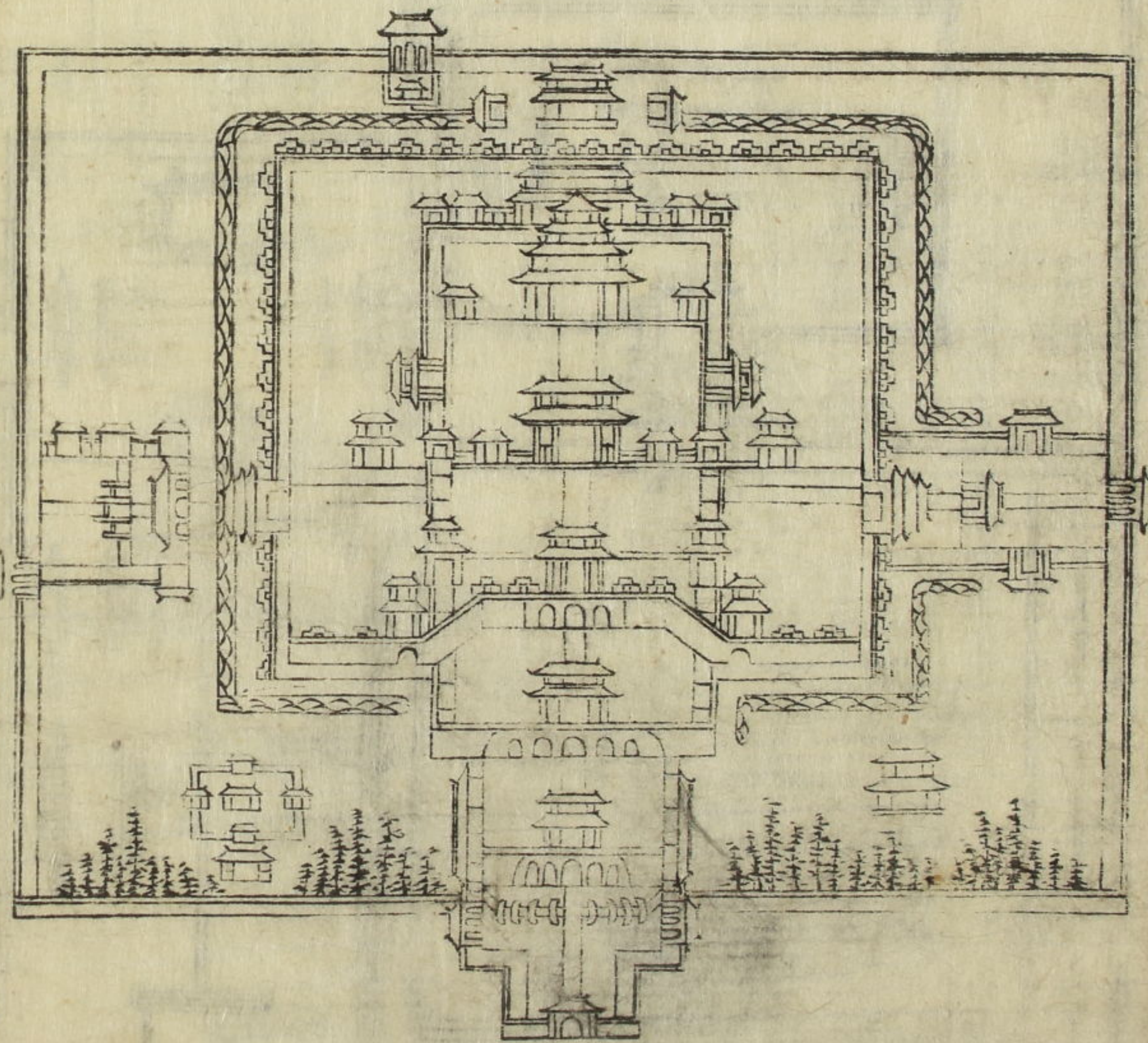
大い 學々 校々 所々

大い 學々 校々



皇城圖

これ天子の
都の國今
よ京東に



皇城圖

唐土訓蒙圖彙卷之四

人物名の下に
之上 和名と附

人物

此部一ハ上三皇五帝一ハ君臣の名
一ハわづれらるる圖像とよび
一ハ佛祖神仙
一ハ蠻夷戎狄の形容とよび
一ハてりらるる

渾沌氏

大荒の代をたて
その始と云ふこと
なり 天地の乃
と明に陰陽の道に遊し
神をて靈を
まことと萬物
のりやん



天皇氏

崑崙無外の山
出づる徳あり
け時立運始
おろり大化始
てきて人の風
俗真に淳し
といふ



高陽王 姓ハ

子名ハ履夏の
築と伐てて
下とたもてり
毫とりし而し
祗一々一在
位十二年壽
百歳たしり

周武王 姓ハ

姓名ハ発父
西伯王 聖徳と
以て天下と三
分にしてその
二とたもてり
武王討と伐
天下とたもてり
在位七年



楚項王 項

籍子ハ羽臨淮
の人長八尺二
寸力能鼎と
扛秦とかりは
漢の高祖
と戦て利あり
以て自刎て
死に

漢高祖 姓ハ

劉名ハ邦下
沛の人秦と
楚と并て帝
位を帝り火
徳と以て長安
に都に在位十
三年壽五十二



漢武帝 名ハ

徹在位五十四
年壽七十一
右イハ年號ハ
一此時始て
おこまり武帝
と名と神仙
とふのり費
あり

漢光武 漢

姓ハ劉名ハ秀
武同り兵を
わきて王莽と
誅し漢室と
中興せり在位
三十二年壽
六十二なり



漢昭烈 蜀

姓ハ劉名ハ備
義興と起し
曹操と戦く
漢中王と後漢
後帝位あり
在位三年壽
六十三なり

魏太祖 曹

操小字ハ阿瞞
沛國譙の人
漢の獻帝の
義兵とみ
賊と戦て功と
以て王となり
終に漢室と
りてへ



吳大帝 姓ハ
孫名ハ權魏
文帝 吳王に
封じ位ニ即ぐ
金陵ニ都り
在位三十一年
壽七十一なり



梁武帝 姓ハ
蕭名ハ衍小
字ハ陳兒甚ハ
信ハ景景
亂ニ於テ臺城
ニ圍メ鎧ニ崩
り壽八十
六なり



西武帝 姓ハ
司馬名ハ炎司
馬懿ニ孫位ト
篡テ自立ル
洛陽ニ都
吳ト平テ混
一に在位
二十五年 壽
五十五なり



唐太宗 名ハ
世民高祖才
二の子ニ太子
建威ト殺シ
之テ太子ト立
之リ以時天下
よく治ル負觀
の政ト稱するハ
以時なり



唐則天 皇后
武氏ハ太宗の
才人トシ高宗
之テ皇后トシ
高宗山崩
朝ニ臨ミ中宗
ト瘵シテ潛立
り在位二十一
年 壽八十一



宋太祖 姓ハ
趙名ハ匡胤
在位十六年
壽五十一なり
太祖始後周
ノ事テ成功ト
シテ後自ら
立テ恭帝の
禪トスルなり



唐玄宗 睿
宗才ニの子シ
安祿山ノ乱ヲ
ニリ蜀に幸
シテ位ト太子
ト稱シ太皇
と稱シ在位
四十四年 壽
七十八なり



元世祖 姓ハ
孛兒只斤
鉄木直蒙古
部人ナリ世
系古部の長
トシて威徳ニ
人ニシテ宋ト
ハシテ王ナリ



明太祖 姓ハ

朱氏諱ハ元章
至正十五年義
兵とて一洪
武元年即位
在位三十一年
壽七十一
カキ



倉頡 黃

帝の所レ人
始て鳥の文
よりて字とつく
と云天にカレテ
と云に粟と云
ら一鬼と云
哭レ世ハ遂ニ
字ハ頡ハ刑
トと云レ



伯夷 名ハ

元字ハ公信ト
いり才の叔齊
と云と云つり
俱ニ逃て西伯
ノ故レ武王の
紂と伐とレ
凍心は首陽
山ニ隠て飢死
周公 武
王乃弟名ハ且
といハ成王の
幼と相て政
と攝レ一王
武王周公共
に聖人ナリ



太公望 姓ハ

姜氏名ハ子牙
又呂尚といハ
西伯留湯ノ
遂て車にのせて
ゆり立て師と
カレる六韜
無法とつくる



顔子 名ハ

回字ハ子淵魯
人心と潜り
道と體とレ
號して亞聖と
稱レ



先聖孔子

縣乃人周の靈王二十一年三月四日申時
生ハ周ノ
敬王四十
一年四月
四日午時
ニ薨ハ
年ハ七十
三魯の泗
水の上ナリ
葬



曾子 名ハ

参字ハ子輿
聖門一貫ノ
傳と得
其學問の本源
孝とレ
故ニ孝經
曾子の問也



子田心 名六

後孔子の孫伯魚の子衛、仲庸と仰り、聖學と演じて、孟子を傳と啓り

孟子 名六

軻字ハ子輿魯の孟孫、後鄒人なり業と子思の門、學既通して齊梁の間、あそふ其學萬世に明り



莊子 名六

周字ハ子休宋の圃、睢陽蒙縣の人、長桑公と師に南華、仙人と号せり、著け西内外篇五十卷、九十萬餘言也

屈原 名六

平楚の同姓、三閭大夫と号せり、諫を遂て憂愁して離騷とけく、汨羅江に沈り



張良 字ハ

子房、韓の公子なり、圯上老人の書と授け、高祖に用られ、功成て後赤松子と保てり

韓信 淮陰

の人なり、漢王壇と築て拜して大將とて三秦とを、大功とあり、後誣られ斬死に



司馬遷 字ハ

子長といひ、漢の太初中に太史令となり、刑とありて憤ると、著一史記と修一萬代史官の法とあり

嚴子陵 名ハ

光會、初百餘兆の人なり、光武と号する、用んとすれ、山に耕して居り



諸葛孔明 諸

葛亮字孔明
南陽に寓居
より劉備往
てこれを見ゆ
終に鄧氏と
助て名臣乃
名とわこ

關羽 字

雲長河東解
人なり蜀乃
先主に事て
恩兄弟の
孫權築
てこれとあら
とら



王逸少 王羲

之字ハ逸少將
軍會稽日乃
内史とた上
己の日山陰の
蘭亭に會して
風流の名あり又
古今能書の才
一かり

陶淵明 晋の

臣なり家に
在る名と譽て
潜字ハ元亮
と名はく世に
靖節先生と
号はく酒を
隱る人なり



杜子美 杜甫

字ハ子美京兆
杜陵の人なり天
宝の末賊を
奏以帝これと
奇くして拾遺
の官なり
は淮南よりが
より人の才
一かり

李太白 李賀

の母張氏の懐
に入とめりて
李白と名なり
因これと名
世に謫仙人
と稱は杜子
と一雙なり



韓退之 名

愈字ハ退之
南陽の人なり
學者之れと
あくと泰山
北斗の如し佛
骨表と上て
潮州に謫せ
らる

柳子厚 名

宗元河東の
人世に柳柳
州と稱は韓
柳と并稱也
らる文章卓
偉の進士
一かり



賈浪仙 賈

嶋字ハ浪仙と
いひり初ハ法乾
寺の僧なり
世子孫ハ僧ハ
敲月下門の
句とけらる人
なり

白樂天 名

居易大原乃
人敏悟人絶
なり十七の
進士氣に登
その時ハ
慈因心塔上
題名慶十九
人中ハ取リ年



司馬溫公 字ハ

君實夏縣の人
居弟蕭然と
國書ルハ
盈その著
所資治通鑑
わり宋朝才
の人物なり

張橫渠 名

載字ハ子厚
長安の人西の
語とわらる
同力行國中
士人の宗師と



邵康節 名

雍字ハ堯夫河
南の人天文易
学の数理に達
し世の易と云
者皆堯夫を
とらとへりその
著ハ取皇極經
世書なり

程伊川 名

頤字ハ正叔聖
学の正脈と傳
孟子の氣象者
といひ所謂天
民乃先學聖
代の真儒と
いへり



程明道 名

顥字ハ伯厚
伊川の兄なり
兄才とも賢
名あり氣象
温和と云
顔子と似たり
といへり

周濂溪 名

惇頤字ハ茂
叔道嘉營道
の人人品高く
胸中洒落
光風霽月の
と黄山
谷といへり



歐陽永叔 名

脩字永叔廬陵の人少時孤なり永貧して灰といて地を畫一畫見たまふ一宋朝才一の文章なり陸九淵字子靜象山先生と稱し語録世に傳ふるその心と本と程子の學と同じ



朱晦菴 名

熹字元晦之率て文と論の理学と啓き周程の書と註まで大成の真儒なり



蘇東坡 名

子瞻名軾東坡居士と号し眉山の人翰林學士とあり文章古今絶れて畫も亦名家なり



薛文清 名

瑄字德温山西河津の人年十二歳詩賦と善進士と登り御史と擢られ薛夫子と稱す



許魯齋 名

謙字益之金華の人學程朱の統とてその外天文地理典章文字字畫藝術教乃



王文成 名

仁字伯登餘姚の人教賊とわがめり象山の居とつきて心學の宗たり世に揚明先生と稱す



公文久職將神酉丁



圖一星の魁



馬司名將神卯丁



通名將神未丁



音之觀之衣之白



佛之尼之牟之迦之釋



佛神仙類

唐土訓蒙圖景卷四

君之帝之武之真



音之觀之海之南之



九

卿玉衛名將神午甲



江子辰名將神戌甲



王子趙名將神丑丁



卿巨崔名將神己丁



卿非孟名將神辰甲



長文扈名將神申甲



卿文王名將神子甲



通文張名將神亥丁



唐書神異圖卷四

甲寅神將名明文童



太上老君

老子の子



西王母



彭祖



天駒之神 先蠶元妃西陵氏



蠶の神天駒の星なりとてハ蠶元妃西陵氏といハル也

東方朔



呂洞賓



張果老



陶弘景



王質



陳圖南



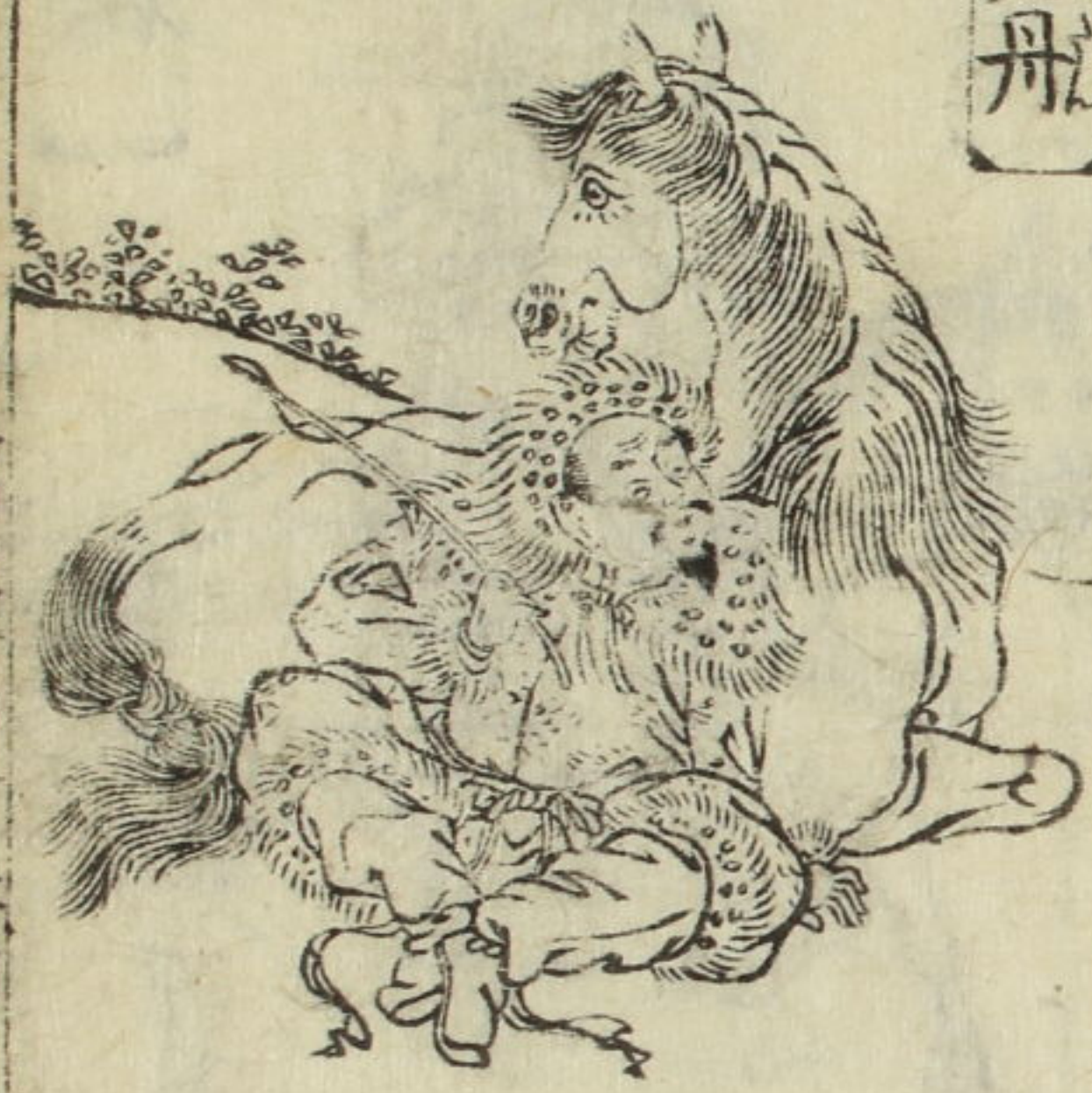
萬國
君子



扶桑國



黑契丹



巴赤舌



包丁石



五原愛達



紅突 フラニタ



女暮樂



阿思



無連蒙古



土麻



阿里車盧並



唐土... 卷四

乾魚日國



擺里



米牙金彪



鐵東



深列大



大羅國



後眼國



歌祭



波利



乞黑奚



氏吾散僧



方連魯



骨利國



木思矣德



黑蒙國



訛魯



三伏駝國



木直夷



近佛國



鳥伏部國



唐土訓蒙圖卷四

獠



西洋國



文身國



道明國



義渠國



蘇部識匿國



乾陀國



龜茲國



唐土川...

